

野口英世 記念会報

第 64 号



目次

巻頭言	1	トリックアート写真スポット設置	
第61回野口英世記念医学賞	2	大学生の博物館実習	
第61回野口英世記念医学賞を受賞して	4	猪苗代中学校2年生の職場体験学習	
野口英世記念奨学生	8	おもてなし企画開催	
平成30年度奨学生証贈呈式	10	第142回誕生祭	
第56回奨学生懇親会	10	ガーナ共和国大統領来館	
第24回野口英世博士顕彰記念少年科学賞	11	各地で行われたイベント	
野口英世博士顕彰記念事業	12	TRA IN SUITE 四季島	
第57回野口英世博士顕彰記念作文コンクール	13	羅羅屋ランドセル展示会	
野口英世没後90年記念大村智先生講演会	16	山梨県甲府で野口英世記念展	
大村智先生の講演会を聞いて	17	極上の会津フェスティバル	
「野口英世博士剖検所見記録」贈呈式	18	日本テレビ「24時間テレビ」	
野口英世の生家が国の「登録有形文化財」に登録されました	20	ハイウェイフェスタとうほく2018	
野口英世記念館と立志式記念スキー学習	22	イオン会津フェスタ2018	
栃木県小山市立小山中学校 校長 飯嶋 治	22	しらかわキャラ市	
第17回心の手紙コンテスト「母から子への手紙」	25	新潟市で野口英世記念展と猪苗代観光物産展開催	
猪苗代からの電話	27	野口英世記念館見学感想文	
野口英世記念館の動向	28	出前授業に行きます！	
大村智先生 野口英世記念館来館		平成30年度の受け入れ資料	
野口英世没後90年記念命日祭		2018年度 主な行事	
野口英世メキシコ訪問100年記念事業		2019年度 主な行事予定	
—高瀬寧・駐メキシコ日本国特命全権大使来館		野口英世記念会寄付のお願い	
猪苗代町の小学校のみなさんが花を寄贈してくださいました		野口英世記念館案内	
野口英世没後90年記念特別展開催			
		表紙 登録有形文化財に登録された野口英世の生家	49
		裏表紙 修復前の野口英世博士剖検所見記録	47
			46
			45
			44
			41
			37
			33

巻頭言

昨年は野口英世博士没後90年の節目の年というばかりでなく、記憶に残る慶事の多い年となった。後のために書きとどめておきたい。

まず一つ目は、博士の生家が登録有形文化財に登録されることになったことである。そもそも当財団の事の起こりは、博士の生家保存から始められたのであり、先人達の願いが具現化された想いである。

二つ目は博士終焉の地であるガーナ共和国にあるガーナ大学野口記念医学研究所のご好意により、博士殉職時の剖検所見記録が私共の記念館に贈呈され、暫時展示公開できたことである。

三つ目は当財団で行っている野口英世記念医学賞の受賞者（昭和56年第25回）である本庶佑博士が二〇一八年ノーベル生理学医学賞を受賞されたことである。本庶先生のご受賞は誠に喜ばしく、紙面をお借りして心からお祝い申し上げる次第である。

さらに、師走に入り年を締めるかの様に突然舞い込んだ吉報が、ガーナ共和国大統領の来館である。没後90年の野口博士に想いを馳せて下さるガーナ大統領に接し、今更ながら野口博士の遺徳に触れた思いである。

本年は年号も改められ、日本国も新たな船出である。好事魔多しの例えもある。新しい年に向かい、心引き締めて野口英世顕彰の趣旨にそってことに当たる所存である。

関係各位には常に変わらぬご賛同、ご協力を賜りたく願うばかりである。

平成31年4月1日

公益財団法人 野口英世記念会

理事長 八子 弥寿男



第61回野口英世記念医学賞

野口英世記念医学賞は、博士が生前に行った研究に関係のある優秀な医学研究に対し、その功績を表彰するものです。

受賞者

理化学研究所生命医科学研究センター
チームリーダー
医学博士 大野 博司



大野博司博士

研究課題

宿主―腸内細菌相互作用の総合的理解に
関する研究

授賞式

平成30年11月3日 午後2時
野口英世至誠館

研究業績概要

大野博司博士は大学院で免疫学を修め、その後の米国NIH留学では細胞内輸送を中心とする細胞生物学の薫陶を受け、平成11年に金沢大学での独立を機に、免疫学と細胞内輸送を融合することで、腸内細菌を細胞内輸送により腸管免疫系に伝達するM細胞の研究に挑みました。従来のM細胞研究は形態学が主流であり、細胞特異的な表面マーカー分子は未同定で、M細胞研究に大きな障害となっていました。大野博士は、M細胞の研究に分子生物学的手法を持ち込み、動物種を越えたM細胞の表面マーカーとしてGP2を同定しました。このとき作

製された抗マウスならびに抗ヒトGP2抗体は、今ではM細胞の解析ツールとして世界中のM細胞研究に広く貢献しています。さらに大野博士は、GP2が病原菌や一部の腸内細菌の取り込みに受容体として機能すること、またプリオンやUmodといったM細胞表面蛋白質もそれぞれ別の細菌群の受容体として働くことを明らかにしてい

ます。同時に、それまで全く不明であったM細胞の分化に、転写因子Spiibが必須であることを世界に先駆けて発見しました。これら一連の研究は、M細胞研究分野に新たなブレークスルーをもたらすものとして、その貢献は国際的にも高く評価されています。

大野博士は、腸内細菌叢が宿主の生体防御や免疫系に与える影響についても、無菌マウスをいち早く研究に応用し、また腸内細菌叢の異なる階層の網羅的解析、すなわち網羅的遺伝子配列解析(ゲノミクス)、網羅的遺伝子発現制御解析(エピゲノミクス)、網羅的遺伝子発現解析(トランスクリプトミクス)、網羅的低分子量代謝物解析(メタボロミクス)等を組み合わせた統合オミクス解析手法を提唱し、その有用性を示してきました。すなわち、腸内細菌が産生する酢酸が大腸上皮の遺伝子発現を介して腸管出血性大腸菌の感染を阻止することや、酪酸がエピゲノム修飾により制御性

授賞式次第

開式の辞	副理事長	竹田 美文
選考経過報告	選考委員長	山西弘一殿
医学賞授与	理事長	八子弥寿男
式辞	理事長	八子弥寿男
来賓祝辞		
福島県知事	内堀 雅雄殿	
駐日ガーナ共和国特命全権大使	フランク・オチェレ殿	
猪苗代町長	前後 公殿	
千葉大学真菌医学研究センター長	笹川 千尋殿	
祝電披露		
受賞者謝辞	大野 博司殿	
記念講演	大野 博司殿	
閉式の辞	副理事長	竹田 美文



表彰を受ける大野博司博士ご夫妻



祝辞を述べる笹川千尋博士

T細胞の大腸局所での分化促進に働くこと等を発見し、それらはいずれもNature誌に掲載され、前者は発表後7年強で656、後者は5年弱で1,004という高い被引用数を得ています。

このように大野博士は、M細胞及び宿主-腸内細菌叢相互作用の研究に、細菌学、細胞生物学、免疫学、オミックス解析等を用いた研究アプローチを精力的に取り込み、これら関連研究領域に新たなパラダイムを導入したことは特筆すべきことであり、その業績は野口英世記念医学賞に相応しい独創的な研究であります。



謝辞を述べる大野博士



オチェレ・ガーナ大使より記念品を贈られる大野博士

第61回野口英世記念医学賞を受賞して

大野 博司

この度は、第61回野口英世記念医学賞という栄誉に預かり、心よりお礼申し上げます。

このように長い歴史と権威ある賞を受賞致しましたことは身に余る光栄であり大変うれしく存じますがそれと同時に、これまでに受賞された錚々たる諸先輩方のお名前を拝し、その末席に加わって頂いたことに大きな責任を感じるとともに、真に身の引き締まる思いでございます。もとより、今回の受賞は私一人の力でなし得ることはできなかったのは申すまでもございません。これまで私と共に研究を進めてくれた研究室の現在在籍している、あるいは過去に在籍していたスタッフ、ポスドク、大学院生の皆様のためめ努力、ならびに共同研究していただきました多くの先生方のご協力があつてはじめてなし得たものであり、ここに改めて深く感謝致します。また、研究に取り組む姿勢や研究の基礎についておおくの影響を受け、また教わった大学院時代の恩師である谷口克先生ならびに斉藤隆先生、留学先のホアン・ボンファシーノ (Juan S. Bonifacio) 先生、さらには今回の受賞に際しご推薦下さいました笹川千尋先生には心より御礼を申し上げます。

授賞式は2018年11月3日、秋晴れの中、

紅葉の磐梯山を拝む猪苗代湖畔の野口英世至誠館で執り行われました。野口英世記念会の八子弥寿男理事長、竹田美文副理事長、山西弘一野口英世記念医学賞選考委員長をはじめとする野口英世記念会の関係者の皆様方、お祝辞のことはを頂いた御来賓の福島県保健福祉部長の佐藤宏隆様、駐日ガーナ共和国特命全権大使のフランク・オチエレ様、猪苗代町長の前後公様、ならびに千葉大学真菌医学研究センター長であり本賞にご推薦頂いた笹川千尋先生、さらにはご臨席いただいた皆様はこの場をお借りして改めて厚く御礼を申し上げます。

私は生まれたのは東京ですが、父の仕事の関係で小学校入学前から佐賀県鳥栖市、茨城県水戸市、東京都品川区、東京都世田谷区、栃木県芳賀郡茂木町、鳥取県米子市と、父の転勤と共に転居をくり返し、小学校4校、中学校、高等学校も2校ずつとそのたびに転校をくり返してまいりました。入学から卒業まで在籍できたのは千葉大学のみで、その後も留学や金沢大学赴任時代を除いてほぼ千葉県に居りますので、千葉が故郷と言っても過言ではございません。中学生の頃から生死について漠然とした興味を持ち、高校生の頃には



記念講演を行う大野博士

生物系、特にヒトを対象とした研究者になることを目指すようになりました。高校生の浅知恵で、ヒトを対象とするなら医学部だろうと思い込み、千葉大学医学部に進学致しました。入学後も基礎医学研究者を目指していましたが、後に千葉大学医学部麻酔学教授となる当時講師だった西野卓先生から、麻酔科は呼吸・循環生理を基礎・臨床の両サイドから研究できる、と口説かれ、卒業後は4年間麻酔科にお世話になりました。麻酔科入局後は、当然のことながらそれまで経験したことがない生身の患者さん相手の麻酔臨床業務に必要な知識と手技を身につけること、そして日々の診療活動に追われる毎日でした。しか



大野博士ご夫妻

し、ずっと抱いていた研究への思いは忘れることはなく、1年間の大病院での研修を終え、市中病院で更なる臨床麻酔の研究を積むに際し、当時の麻酔科講師であった三枝陸朗先生に何か市中病院でできる臨床研究はないかと御相談したところ、硬膜外麻酔時の循環動態について調べてみたらどうか、とのアドバイスを頂きました。硬膜外麻酔というのは、脳脊髄および脳脊髄液を包み込む硬膜と椎骨の間の硬膜外腔にリドカインなどの局所麻酔薬を注入することで、麻酔薬が徐々に脳脊髄液に移行して麻酔効果をもたらす麻酔法です。局所麻酔薬は硬膜外腔に分布する血管へと吸収されることで局所での麻酔効果が失わ

れるため、血管を収縮させて麻酔薬の局所からの除去を遅らせ麻酔効果を長く保たせるとともに、局所麻酔薬が急速に血中に吸収されることによる全身性の副作用を抑えるために、局所麻酔薬に副腎髄質ホルモンである交感神経作動薬エピネフリン（アドレナリン）を少量混ぜて注入する方法がありました（現在では術後疼痛管理にも使用する目的で硬膜外にカテーテルを留置するのが一般的です）。麻酔薬の追加投与も可能であり、エピネフリンの使用は一般的ではないようです）。エピネフリンの濃度は慣習的に局所麻酔薬量の20万分の1を加えていましたが、血中に吸収されるエピネフリンの全身性副作用として血圧低下や頻脈が比較的頻繁にみられていました。そこで、エピネフリン濃度を段階的に振ることで、60万分の1以下の濃度でエピネフリンの循環動態の副作用なく麻酔効果の延長が得られることがわかりました。この結果をまとめた論文は「Anesthesiology」という麻酔学分野では最も権威のある学術雑誌に掲載され、私の初めての英文原著論文であります。この経験は私の子供の頃からの目標ともいべき基礎研究者への道を強く意識するきっかけとなり、当時の麻酔科では大学紛争後一人も入学していなかった大学院へと進学することを決心しました。エンドルフィンやエンケファリンという内因性麻薬用物質オピオイドがちょうど発見されてNature articleに発表された頃で、当初は麻酔科ということもあり、痛みに関する研究テーマとしてこの

オピオイドの受容体の研究に従事したいと考えました。オピオイド受容体は現在では δ 、 κ 、 μ の3種類であることがわかっていますが、当時はまだその実態は明らかではなく、種々の合成麻薬用薬剤を用いた薬理的な研究から7〜8種類あるのではないかと推定されておりました。私もこの分野の研究を行いたいと思い、千葉大学医学部脳機能研究施設神経薬理研究部門の萩原彌四郎教授に御相談に乗って頂いたところ、専門家のところできちんと基礎を勉強すべきとのことで、オピオイドや痛覚を研究テーマとされていた京都大学薬学部薬理学教室（佐藤公道教授、当時）をご紹介いただき、単位互換制度で内地留学し、倉石泰助教授（当時）の元で痛みの研究をはじめました。1980年代後半のことで、当時はまだ分子生物学的手法を導入している研究室は基礎研究分野でも数える程度でした。そこで、千葉大学の大学院に戻るに当たり、既に分子生物学的手法を取り入れて世界の先端の免疫学研究を展開しておられた免疫学研究室の谷口克教授が学生時代から存知上げていましたので、谷口先生の元で研究させて頂けるようお願いし、ちょうど米国から帰国したばかりの斉藤隆助手（当時）に師事してT細胞の研究を開始しました。幸運にも、T細胞抗原受容体複合体のサブユニットである ζ 鎖、 η 鎖ゲノム遺伝子を世界に先駆けてクローニングすることができました。大学院修了後は千葉大学医学部遺伝子情報分野の教授になられていた斉藤先生のとこ



記念講演

るの助手にしてください、1991年秋から半年間、ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム短期フェローシップを得て、当時遺伝子欠損マウス作製技術をいち早く免疫学の研究に導入していたドイツ・ケルン大学遺伝学研究所の Klaus Rajewsky 教授の元で鎖、 η 鎖の遺伝子欠損マウスの樹立を行いました。その成果は2報の論文として EMBO Journal に報告致しましたが、このときの論文原稿の添削での Rajewsky 先生とのやり取りの経験が私の英文論文執筆の基礎と

なっております（当時はメールもなく、ファックスでこちらからお送りしたダブルスペースの英文原稿に Rajewsky 先生が肉筆で修正してファックスで送り返されてくるのですが、解像度の悪い熱転写のファックスですので、手書き文字の英文の解読に非常に苦労したのは今では懐かしい思い出です）。

胸腺で未熟な T 細胞である胸腺細胞が成熟する過程で、T 細胞抗原受容体の細胞表面の発現量は20倍にもなりますが、ウエスタンブロットで細胞内の T 細胞抗原受容体タンパク質の発現量を比較すると両者の間で差がみられないことから、未熟胸腺細胞では大半の T 細胞抗原受容体タンパク質が細胞内に留められていることが1990年代初頭に示されました。私はこの現象に大変興味を持ち、千葉大学を休職させて頂いての1994（1997年の留学では米国 NIH で Bonifacio 博士の元、細胞生物学、とりわけ細胞内輸送の研究に従事しました。といって T 細胞や T 細胞抗原受容体そのものが研究対象ではなく、HeLa細胞やMDCK細胞という上皮細胞株を用いて、エンドサイトーシスや極性輸送の基礎的な研究を行いました。その中で、クラスリンと一緒にエンドサイトーシスに働くアダプター複合体 AP2 の $\mu 2$ サブユニットがエンドサイトーシスシグナルとして働くチロシンモチーフと直接結合することを発見し、Science 誌に論文を掲載することができました。そして、当時整備が進んでいた EST データベースで $\mu 2$ サブ

ユニットとホモロジーを有する遺伝子を検索した結果、神経特異的に発現する $\mu 3 B$ サブユニットと上皮細胞特異的に発現する $\mu 1 B$ サブユニットの遺伝子を見いだしました。

Bonifacio 先生の許可を得て、これら遺伝子を千葉大学に持ち帰って研究を続けることができ、 $\mu 3 B$ サブユニットは神経細胞におけるシナプス小胞の形成に関与し、一方 $\mu 1 B$ サブユニットは上皮細胞における極性輸送を制御する因子であることを明らかとしました。1999年に金沢大学がん研究所に教授として赴任し研究室を主宰させて頂くことになり、これまでの免疫学と細胞内輸送の研究を組み合わせた研究対象として、腸内細菌を取り込んで腸管免疫系に受け渡す、「トランスサイトーシス」という細胞内輸送系の発達した特殊な腸管上皮細胞サブセットである M 細胞の研究を研究室のメインテーマに定め、今回の受賞に繋がる腸管免疫学の研究を開始しました。さらに2004年に現在も在籍する理化学研究所に異動してからは、腸内細菌叢が宿主に及ぼす影響の重要性に着目し、腸内細菌を宿主が認識するメカニズムである M 細胞研究に加え、腸内細菌が宿主の免疫系や疾患に及ぼす影響の分子メカニズムの研究を開始し、こうして今回の受賞テーマである宿主-腸内細菌相互作用の総合的理解にむけた研究を開始しました。

M 細胞は1970年代初頭に米国で電子顕微鏡観察から、パイエル板に代表される腸管関連リンパ組織を覆う上皮領域に存在する、

微絨毛を有さない特殊な形態の上皮細胞として発見されました。M細胞研究はそれ以降も形態学が主流であり、細胞特異的な表面マーカー分子は未同定で、M細胞研究の大きな障害となっていました。私達は、1990年代後半に台頭してきたcDNAマイクロアレイ技術をM細胞研究に導入し、M細胞の存在するパイル板を覆う上皮領域と、M細胞の存在しない絨毛上皮領域の遺伝子発現プロフィールを網羅的に比較することで、M細胞特異的に発現する遺伝子群の同定を試みました。その結果、動物種を越えたM細胞の表面マーカーとしてGP2を同定しました。このとき作製された抗マウスならびに抗ヒトGP2抗体は、今ではM細胞の解析ツールとして世界中のM細胞研究に広く貢献しています。

さらに私達は、GP2が病原菌であるサルモネラや腸内常在菌細菌である大腸菌などの、I型絨毛を有する腸内細菌科のいわゆる腸桿菌群の取り込み受容体として機能すること、またプリオンやUmodなどの分子もM細胞の腸管内腔側の細胞表面に強く、或いは特異的に発現し、それぞれ別の細菌群の受容体として働くことを明らかにすることができました。私達はまた、それまで全く不明であったM細胞の分化についての研究を進めて参りました。米国エモリー大学のIfor R. Williams教授〔当時〕のグループが、M細胞の存在するパイル板上皮領域直下の間質細胞が腸管内では特異的にRANKLというシグナル分子を発現しており、M細胞の分化はこの

RANKL 依存的事であることを1990年代末に報告しました。私達はWilliamsグループとの共同研究により、RANKL 刺激依存的に未分化な上皮細胞内に転写因子Sp1-Bの発現が誘導され、M細胞の分化にはこの上皮細胞内在性のSp1-Bの発現が必須であることを世界に先駆けて発見しました。これら一連の研究は、M細胞研究分野に新たなブレークスルーをもたらすものとして、その貢献は国際的にも高く評価されていると伺っております。

腸内細菌叢が宿主の生体防御や免疫系に与える影響については、無菌マウスを研究に応用し、また腸内細菌叢の異なる階層の網羅的解析を組み合わせた統合オミクス解析手法を提唱し、その有用性を示してきました。その結果、腸内細菌が産生する酢酸が大腸上皮の遺伝子発現を介して腸管出血性大腸菌の感染を阻止することや、酪酸がエビゲノム修飾により制御性T細胞の大腸局所での分化促進に働くこと等を無菌マウスの系を用いて発見し、それらはいずれもNature誌に掲載され、特に後者の論文は発表後5年で1004という高い被引用数を得ています。このように私達は共同研究者にも恵まれたことで、宿主-腸内細菌相互作用の総合的理解にむけた研究を世界に互する形で展開させて頂くことができたと自覚しております。

本年は、野口英世記念医学賞受賞者の大先輩である本庶佑先生が奇しくもノーベル医学生理学賞を受賞されました。このように日本

の医学研究界にとっても輝かしいひとつの金字塔が打ち立てられた記念すべき年に野口英世記念医学賞を受賞できたことは望外の喜びであるとともに、その重責をかみしめております。私の成し遂げてきたことは歴代の受賞者の方々の輝かしいご業績に比肩するものではございませんが、今回の受賞は、諸先輩方に少しでも近づけるように今後さらに努力精進しなさい、という激励の意味が込められているものと認識し、今回の受賞に恥じないように研鑽を積む所存であります。末筆ではあります。今回ご推薦頂いた笹川先生、私を選んで頂いた山西選考委員長をはじめとする本賞選考委員の先生方、素晴らしい授賞式を挙げて頂いた八子理事長、竹田副理事長をはじめ野口英世記念会の皆様、これまでご指導頂いた恩師の先生方、ご多忙の中授賞式でご祝辞を頂いたりご参列頂いた福島県、猪苗代町、ならびに駐日ガーナ共和国特命全権大使をはじめとする大使館の関係者の皆様に改めて感謝の意を表したく存じます。また、繰り返しになりますが今回の受賞は当然私ひとりではなし得るすべはなく、共同研究者の先生方や一緒に研究を進めてくれている研究室の仲間達の努力の賜物であり、また日々支えてくれた家族無しにはなし得なかつたことと、ここに深甚なる謝意を表します。今後の野口英世記念会の益々のご発展を祈念して受賞のことばとさせて頂きます。今回は本当にありがとうございました。

野口英世記念奨学生

野口英世記念奨学生制度は、有為な人材を育成し、良き社会人として世に送る目的で、高等学校に在学する間の学資金の給付を行う制度です。平成31年度の第61期奨学生は、奨学生選考委員会の推薦を受け、5名に決まりました。新しい奨学生が、それぞれのすばらしい夢を綴ってくれました。

「将来の夢と高校生活の抱負」

郡山市立片平中学校

石井 瑠



私は、将来、社会のために役に立つ研究者になりたいと思っています。

研究者を志したきっかけは二つあります。一つは幼いころから好奇心が旺盛で、何かに疑問を抱くことが多く、それが現在まで続いていること、もう一つは理系教科が得意でこういった自分の性格を生かせるのは研究者だと思ったからです。

高校では、今よりもずっと専門的になる理科や数学を、しっかりと学んでいきたいと思っています。また、研究者になるには大学への進学は必須であ

るため、理系教科以外の学習にもしっかりと取り組みたいと思います。どんな歴史に名を残すような発見をした偉人も、すべては一つの疑問から始まっていると思うので、私も、一つ一つの疑問を大切にしていきたいと思っています。

「私の将来の夢」

福島県立会津学鳳中学校

井上 真由



私の将来の夢は、建築家になることです。きっかけは、毎週母と欠かさずに見ていたテレビ番組でした。様々な知識を生かしながら、人々の希望を「家」という形にして叶えていくのを見

て憧れるようになりました。

また、建築家は理系の中でも文化や芸術に関連が深い学問だと知り、私の興味関心の方向性とも一致していると思いました。

進学を希望する横浜国立大学に入り、建築学を専攻し、日本の伝統建築を専門的に学び、理解を深めると共に、それを広く伝えられる建築家を志したいです。

夢を実現するために、高校では自分の得意分野である理系科目を中心に幅広く学習に取り組み、成績上位を目指したいです。

そのために授業の時間も大切にしながら周囲の友達と切磋琢磨し、勉学に励み、充実した高校生活を送れるよう努めます。



「野口英世記念会の奨学生になって」

喜多方市立第二中学校

清野せいの 由美ゆみ



この度は、野口英世記念会の奨学生に採用して頂き、本当にありがとうございます。私を支援してくださる皆様に、心から感謝を申し上げます。

私の将来の夢は、リゾート開発や運営を通して、たくさんの人に、夢と笑顔を与えられるような仕事に就くことです。野口英世博士は、貧しい家に生まれ、幼い頃から多くの苦勞をされました。しかし、博士の懸命な努力をする姿が、周りの人々の心を動かし、博士を偉大な医者にしました。

博士の様な人間になるのは、私には難しいかもしれませんが、博士に負けないくらい一生懸命努力をして、自分の夢を実現させたいと思います。そして、これからの社会が、夢と笑顔であふれるよう、大いに貢献できる人間に成長し、恩返しをしていきたいと思えます。

「感謝の気持ちを胸に」

白河市立白河南中学校

高根たかね 唯ゆい



この度は、野口英世記念奨学生に選出して頂きありがとうございます。

私は、小さい頃から絵を描くことが好きで、中学生になり、絵に触れることの楽しさを沢山の人に伝えたいと思うようになりました。将来は美術の教師になることが私の夢です。夢を実現させるために、高校では四年制大学に進学するための学力を身につけ、美術部に入学して自分のスキルをアップさせられるように、学業と部活動を両立させていきます。また、新たに出会う人々との関わりを大事にしながら、様々な考え方を認め合える人間関係を築き、人格の向上にも専念していきます。そして、私を支えてきてくださっている方々への感謝の気持ちを胸に、恩返しができるよう努力を怠らずに日々前進していきます。今回の奨学金を大切にしながら、将来の夢の実現のために活用していきたいと思えます。

「将来の夢の実現に向けて」

喜多方市立第二中学校

長井ながい 瑠南るな



この度は、野口英世記念奨学生に選んでくださりありがとうございます。

私の将来の夢は薬剤師です。薬剤師を目指したきっかけは家族です。私の家族は昔から身体が弱く病院に通っています。病院についていき薬をもらうときに、私は薬剤師の姿を興味深く見ていました。薬剤師になることは決して簡単ではありません。しかし、将来の夢の実現に向けて支援していただいていることを忘れずに頑張りたいです。

また、野口英世記念奨学生として恥じぬように生活したいです。日々努力を怠らずに精進して、野口博士のように人々に尽くせるような薬剤師になりたいと思います。そして、いつか支援して下さったすべての人に恩返しすることができるような人間になることを目標として頑張ります。

平成30年度奨学生証贈呈式

平成30年8月4日に、平成30年度奨学生証贈呈式を「猪苗代観光ホテル」で行いました。

第60期奨学生5名中、出席した3名に、八子弥寿男理事長より奨学生証が贈呈され、激励の言葉がかけられました。

第60期奨学生（出席者のみ）

- 内山 うちやま そら（福島県立相馬高等学校）
- 橋本 はしもと 悠人（日本大学東北高等学校）
- 星 ほし 信清（福島県立会津高等学校）



奨学生証を受け取る60期奨学生
右から橋本悠人さん、内山そらさん、星信清さん
左端は八子弥寿男理事長



近況を報告する星信清さん

第56回奨学生懇親会

第56回奨学生懇親会を平成30年8月4日（土）午前11時30分より「猪苗代観光ホテル」で開催しました。

一、出席者（14名）

- | | |
|------------|------------|
| 杉本 富夫（1期） | 花見 幸作（2期） |
| 小野 秀幸（5期） | 関根 徹夫（7期） |
| 加藤 次郎（8期） | 本多香津子（11期） |
| 渡辺 利行（13期） | 塚本 貢市（28期） |
| 金作 昌弘（35期） | 星野 賢一（54期） |
| 田沢うらら（59期） | 内山 そら（60期） |
| 橋本 悠人（60期） | 星 信清（60期） |

記念会 八子 弥寿男・竹田 美文・石田 寛人・五十嵐 上枝

二、懇親会

- (一) 一部
 - ア 開会の辞
 - イ 挨拶
理事長 八子 弥寿男
 - ウ 土津神社の見学
- (二) 二部
 - ア 挨拶・乾杯
 - 奨学生代表 杉本 富夫
 - イ 会食・懇談
 - ウ 自己紹介・近況報告
 - エ 閉会の辞



土津神社奥の院にて集合写真

第24回野口英世博士顕彰記念少年科学賞

野口英世博士生誕の地、猪苗代町の小中学校から作品を募集する野口英世博士顕彰記念少年科学賞は第24回を数えました。今回は小学校198点、中学校9点、計207点の研究作品の応募がありました。

本年度の入賞作品は左記の通りです。おめでとうございます。

最優秀賞

究極の流しそうめんとは？

身近な野菜・果物のビタミンCを探る！

優秀賞

みずべのいきものずかん

ありはどんなたべものがすきなんだろうか

水としおのふしぎ〜野菜から出る水〜

どうして長せ川は赤くなるの？

台風の研究〜台風はどこを通るとあぶないのか〜

カビをおさえるもの研究

佳作

わたしのはっぱずかん

ノコギリクワガタのひみつ

ふきのとうとわたしのまわりのはる

赤じそ大变身！

今年の夏は暑かった!?〜父が4年生の時の気温と比べる〜

農薬を使わないで野菜はできるのか。こまつなへん

私の家は大丈夫?〜西日本豪雨災害から学んだこと〜

緑小学校

6年

渡部 響子

猪苗代中学校

2年

高木 沙也

翁島小学校

1年

楠 脩汰

千里小学校

2年

吉田 真望

猪苗代小学校

3年

小林 花帆

吾妻小学校

4年

鈴木 理心

翁島小学校

5年

喜多見叶暖

東中学校

2年

渡部菜々子

吾妻小学校

1年

大桃 望

猪苗代小学校

2年

五十嵐 諒

猪苗代小学校

2年

五十嵐咲心

猪苗代小学校

3年

渡邊 耕平

吾妻小学校

4年

大桃 匠

吾妻小学校

4年

杉田 百花

吾妻小学校

6年

鈴木日奈子



最優秀賞 猪苗代中学校2年 高木沙也さん



最優秀賞 緑小学校6年 渡部響子さん

野口英世博士顕彰記念事業

野口英世生誕の地である猪苗代町では、町内の小・中学校の児童生徒が「二十一世紀の国際社会において野口英世に続く日本人」になることを期待し、スポーツや文化事業を通じ、野口英世の精神である「忍耐・努力」を培うことを目的にした種々の顕彰記念事業を行っています。



中学校球技大会
2018年5月12日



小学校体育祭 2018年9月12日



小学校スキー大会 2019年2月5日



小中学校音楽祭 2018年10月2日

第57回野口英世博士顕彰記念作文コンクール

野口英世のふるさと猪苗代町の小学4年生と中学2年生を対象に募集を行う「野口英世博士顕彰記念作文コンクール」の授賞式が11月9日に行われました。

今年も博士に想いを寄せる作文や博士の姿から学んだことを記した作文が多く寄せられました。授賞式では特選に選ばれた吾妻小学校4年大桃匠さんと東中学校2年三瓶蓮心さんが作文を朗読しました。

特選

正直な自分に

吾妻小学校 4年 大桃 匠



どうかと考えた時、ぼくは、三つの言葉の中で「正直」という言葉が心にさざりました。今までの自分は正直ではないと思うからです。

毎週金曜日はスポーツのサッカー部の練習があり、ぼくは、帰るとくたびれてゴロゴロしてしまいます。ある日も、そのままテレビをみて、まん画を読んで、夕食を食べて、宿題をほったらかしでした。そのうち、父が帰ってきました。宿題はやったかどうか聞かれ、思わず、「やった。」

と答えてしまいました。その時は、うそをついてごまかしたことを、そんなに悪いとは思っていませんでした。その後、母も帰ってきました。母がぼくの宿題を見て、

「どうしたの、やってないよ。」

「目的」「正直」「忍耐」。これは、野口博士がアメリカから一時帰国した時に、母校の翁島小学校におくった言葉だそうです。自分はできているか

〈小学校の部・4年生〉		
特選	吾妻小学校	大桃 匠
金賞	猪苗代小学校	佐藤 丞馬
	緑小学校	深谷琥太郎
	翁島小学校	小池 由奈
銀賞	長瀬小学校	佐藤 響生
	千里小学校	塚原 穂花
	猪苗代小学校	山崎 陽臥
〈中学校の部・2年生〉		
特選	東中学校	三瓶 蓮心
金賞	猪苗代中学校	岡野和乃佳
	吾妻中学校	鈴木 七海
銀賞	猪苗代中学校	鈴木 美咲
	猪苗代中学校	本田 埜乃

てしまいました。父から

「どうしてうそをついたの。」

と言われ、ぼくは、せ中がぞわつとしました。ぼくがついたうそのせいで、父と母をがっかりさせてしまいました。「なぜ正直に言えなかったのか。」とても後かいました。

「正直」には、二つの意味があると思います。一つは「自分に正直に」ということです。自分の気持ちに素直に行動すること、自分の心をごまかしたりうそをついたりしないことだと思います。二つ目は「人に正直に」ということです。それは、他の人にうそをついたりごまかしたりしないことだと思います。

ぼくは、おこられたくない、ちょっといいところを見せたい、という気持ちでうそをついてしまいます。でも、うそをついた後、心がもやもやして、ダメな自分になったような気がします。ごまかしてしまう自分は、ずるいしひきょうだとも思いません。ぼくは、そんな今までの自分から変わりたい、そう思ったのです。

野口博士は、「正直は最ぜんの方さくだ。」という言葉を大事にしていたと本に書いてありました。何事につけても、正直に生きていくことが一番である、という意味だそうです。博士にも弱いところがたくさんあったでしょう。でも弱い自分を認め、いい顔をしたり意地をはったりせず、素直に周りの人にたより、協力を求めることもあつ

たのだと聞きました。だから、周りの人からも信らいされ、助けられて、世界的に有名な医学博士になることができたのでしょう。

ぼくも、野口博士のように、弱い自分を素直に認めて、弱さにも向き合える自分になりたい。素直な心で、そして心の弱さでうそをついたりごまかしたりせずに、堂々と行動できる正直な自分になりたいと思います。

特選

おーい英世先生！僕も頑張ります

東中学校 2年 三瓶 蓮心



僕は中学二年生です。ここ猪苗代町で生まれ、育ててもらって十四年です。猪苗代町は磐梯山や猪苗代湖があつて、田んぼも畑もある、自然豊かなところですよ。寒い寒い、厳しい冬は少し苦手な

ですが、その分春の桜はとてもきれいです。そんな猪苗代町で、ことあるごとに耳にしてきた『野口英世』という名前。英世先生は僕が生まれた年に千円札になりました。困っている人のため、アフリカで黄熱病の研究をした偉大な人です。

小学校の学校行事で「野口英世記念館」を見学したとき、英世先生について、家は貧乏だったがとても努力した人だと学習したことがあります。そして中学二年生の今、作文をきっかけに、英世先生についてももう少し詳しく調べてみようと思いました。

本やインターネットを使いながら調べていると、英世先生が残した言葉で、「失敗したら、またがんばればいいんだ。生きてる限り何度でも。それが人間の特権だ。」というのを僕は見つけました。この言葉に触れたとき、ふと思いついた出来事があります。それは中学一年生の時の部活動でのことです。

一年前の九月、野球をしている僕が初めて臨んだ新人戦。それまでチームを引っ張ってくれていた三年生は引退し、一、二年生だけの試合でした。人数は誰一人欠けることのできないギリギリの九人。練習では、自分から声を出したり、全力疾走を心がけたりと、精一杯取り組んできました。さらに家に帰ってから鏡の前で素振りをしたり、父とキャッチボールをしたりと、大会で勝つために努力を重ねてきました。そうして迎えた試合の

相手は、これまでずっと勝てなかった猪苗代中学校です。県大会を目指すには避けては通れない宿敵です。仲間同士で「今度こそ勝とう！」と言って気持ちを高め試合に臨みました。そんな僕たちのために、保護者の方々もたくさん応援に来てくださいました。

僕のポジションはセカンドです。序盤は3対0でリードしていましたが、初めての公式戦で緊張していたためか、僕は飛んできた高いフライを落球してしまいました。そこから、悪い流れができてしまい、味方のエラーがバタバタと続き、ついには逆転負けを喫してしまいました。

もう何も手につかないほどショックでした。試合後ミーティングがありました。僕は仲間になんて謝ればいんだろうと思っていました。ですが、この敗戦を機に逃げ癖をつけるわけにはいけません。僕たちチームにはまだ先がある、次こそは頑張ろうと仲間は言ってくれました。

そんな僕の記憶を、英世先生の言葉がよみがえらせてくれました。

二年生となり、新一年生が入部してきましたが、先輩方が引退すると新チームはまたしても九人でした。けれど、チーム内で最高学年となった僕たち二年生の責任は、昨年以上です。次は絶対に猪苗代中学校に勝ちたい。そう思って夏休みの練習に取り組みました。今年の夏は非常に暑く、その中でのつらい練習に何度も負けそうになりました。

た。また、何回素振りしても練習試合で打てなかったときは、自分の成長が実感できず心もくじけそうになりました。けれど、そんな時には一年生のときの悔しさ、そして、英世先生の言葉を何度も何度も思い出し、自分を励ましました。その頑張りが結果となって表れたのは、夏休み終わり頃に開かれた「東北少年軟式野球新人大会」です。相手は宿敵猪苗代中学校でした。緊張はしましたが、絶対勝とうという気持ちでいっぱいでした。つらい練習もたくさんしてきたんだ、という自信もありました。強い気持ちで向かった試合での僕たちの打線は見事につながり、今まで公式戦では勝てなかった猪苗代中学校に大差で勝利しました。ゲームセットの瞬間、僕は「頑張ってきた良かった、あきらめないで良かった。」と心から思いました。そして試合後のミーティングでは喜びを仲間と分かち合いました。

英世先生も研究の過程ではたくさんの失敗を重ね、何度も挫折しそうになったに違いありません。ですが、その困難のときにも決してあきらめず、頑張ってきたからこそ、世界に誇れる医学者として成功を収め、人々を救うことができたのだと僕は思います。

これからは僕は野球を続けていきます。夢や目標を達成する成長の過程では、これまで以上の困難に立ちふさがれ、もうやりたくないと思ってしまう日があるかもしれませんが、そんな時は英

世先生が残してくれた言葉を思い出します。「失敗したらまた、がんばればいんだ。生きてる限り何度でも。それが人間の特権だ。」

失敗に負けず、僕は何度でもがんばります。



東中学校 2年 三瓶 蓮心さん



吾妻小学校 4年 大桃 匠さん

野口英世没後90年記念

大村智先生講演会

「わたしの 歩んできた道」

2018（平成30）年は、野口英世がアフリカで黄熱病の研究中に命を落としてから90年目の節目の年にあたります。この没後90年を記念し、2015年にノーベル生理学医学賞を受賞された大村智博士（北里大学特別教授）の記念講演会「わたしの歩んできた道」を開催いたしました。

4月14日、会場となった猪苗代町体験交流館「学びいな」大ホールは、野口英世のふるさと猪苗代町の中学生全員、福島県内の中高生、および一般の人たちで満員となりました。

大村先生は、先生の幼少期からの生い立ちから話し始め、学生時代の恩師や教員時代の生徒、さらには研究者仲間など、多くの人との出会いの大切さを説かれました。多くの人たちとの交流が、先生の人生に示唆を与え、影響したことを話され、「一期一会」という言葉を座右の銘としてこられたと述べられました。そして、多くの人たちから受けた恩を忘れないことを大切にして人生を歩まれてきたと話されました。

先生の研究生生活に関しては、アメリカ留学から帰国する時、当時の日本

の研究環境を考え、アメリカで先生の研究に協力してくれる企業を見つけたり、動物の寄生虫駆除薬の開発によって得た多額の特許料を、その後の研究の発展に充てたばかりでなく、病院の創設などの社会貢献に活用したことを紹介されました。そうした経験から「よいことをすると必ず応援してくれる人が現れる」と話されました。

WHOは、オンコセルカ症の撲滅作戦に大村先生が開発されたイベルメクチンを使い、現在までにアフリカの無数とも言える多くの人々を、失明や疾病から救っています。2015年までにはオンコセルカ症が地球上から消えると考えられています。大村先生の研究成果がどれほど社会に貢献しているか、計り知れないはずです。

大村先生は講演の最後には若い人たちへのメッセージとして「失敗を恐れ挑戦しないで、チャンスを逃すことを恐れなさい」「成功した人は、誰よりも多く失敗をした人だと思いなさい」との言葉を贈られました。



講演中の大村智先生

大村智先生の講演会を聞いて

地道なことの積み重ね

福島県会津若松ザベリオ学園中学校 2年

本間 響さん



病気そのものをなくすことができると思います。この薬をつくりだすには、とても地道で根気のいる研究があったことを知りました。ゴルフ場の土から、たくさんの人を救うことのできる薬ができることは誰も考えないことだと思います。

この講演会で、私が感じたのは、地道なことを積み重ねることの大切さです。先述したように微生物の研究はとても根気のいることだと思います。でも、その研究の積み重ねで実際にたくさんの方の命を助けることができます。そして、大村先生はとても肯定的な人だと感じました。自分の悔しかったことにこだわらず、次へ次へと新しいことにチャレンジするところは自分と似ていると思いました。

今の私の夢は医師になることです。つい先日までは、外科医になって手術をして人を助けることばかり夢見ていましたが、この講演を聞いて、違う道にも興味を持つようになりました。これからは、固定観念や他人の言動だけにとらわれず、自分の意志をはっきりと持って何事にも前向きに取り組みたいと思います。そして、野口英世博士の生まれ育った猪苗代町に、自分が住んでいることに誇りを持ち、野口博士のことをもっとたくさんの人に伝えていきたいです。

北里研究所で働く人になりたい

福島県いわき市立泉北小学校 5年

土屋 侑里さん



四月十四日の大村智先生のこうえん会を聞かせてくれて、ありがとうございました。

ぼくは、三年生の時、大村先生のことを書かれた、「大村智ものがたり」という本を読み、先生のことをそんげいするようになりました。先生に会えて、話を聞くことができ、本当にうれしかったです。先生の話の中で、ぼくが一番心に残った言葉は、「二期一会」です。ぼくも、先生のように、人との出会いを大切にしようと思います。

ぼくは、本を読むのが大好きです。先生のこうえんを聞いて、先生も本をたくさん読むんだな、と思いました。

ぼくは、大人になったら、先生と同じように、北里研究所で働く人になりたいと思っています。

ノーベル賞を受賞した先生が、自分の住んでいる猪苗代町で講演をしてくださると知ったのは、学校に張り出されていたポスターがきっかけでした。しかも、今、私が最も興味を抱いている医学分野でノーベル賞を受賞された大村智先生だったので、驚きを隠すことができませんでした。

たくさんの方が感染し、さらには失明することもある感染症オノコセルカ症。この病気を、一年に一度飲むことで予防し、治すことのできる奇跡の薬イベルメクチン。この薬ができたことにより、約二億人を失明から救うことができ、10年後には

野口英世博士剖検所見記録 贈呈式

「野口英世博士剖検所見記録」贈呈式



野口英世至誠館での贈呈式で、アナン所長から「野口英世博士剖検所見記録」の贈呈を受ける八子弥寿男理事長



アクラの野口記念医学研究所での引き渡し式で、アナン所長から「野口英世博士剖検所見記録」を受け取る野口由紀子主任



贈呈された「野口英世博士剖検所見記録」

2018（平成30）年6月9日、野口英世至誠館において、「野口英世博士剖検所見記録」（「剖検記録」）の贈呈式が行われました。

「剖検記録」は、野口英世が1928（昭和3）年5月21日に、黄金海岸（現ガーナ共和国）のアクラのヨーロッパ病院（現リッジ病院）で死亡した直後、イギリス人病理学者W. A. Young博士が行なった病理解剖の所見を、Young博士が記録したものです。その存在が確認されたのは、1979（昭和54）年に福島県立医科大学が、国際協力事業団（現国際協力機構）のプロジェクトとして、アクラに野口記念医学研究所を創設した時です。現物は、長年の間特別に保存されていたにもかかわらず、破損が激しく、永久保存のための修復が必要な状態でした。



贈呈式で祝辞を述べる
アイェクミ・ガーナ大学副学長



贈呈式で祝辞を述べる
姫野勉・駐ガーナ日本国特命全権大使



贈呈式で祝辞を述べる
オチェレ・駐日ガーナ共和国次期特命全権大使

野口英世記念会は、1998（平成10）年に、わが国の文化財修復の専門家に依頼して、「剖検記録」の修復を行いました。修復後の「剖検記録」は、ガーナの野口記念医学研究所が保管していました。ところが、時が経つに伴い、「剖検記録」の所在が不確かとなり、2017（平成29）年の時点で、行方不明になっていました。

2017（平成29）年11月、アクラにおいて「野口英世来ガーナ90周年記念シンポジウム」が開催された際、招かれて基調講演を行った当記念会の野口由紀子総務課主任が、アクラ滞在中に、野口記念医学研究所、在ガーナ日本大使館および東京医科歯科大学ガーナ拠点の皆さんの協力を得て「剖検記録」の所在確認を行いました。滞在中に所在場所がほぼ確認できましたが、最終確認には至りませんでした。

野口由紀子主任が帰国の途についた数日後、在ガーナ日本大使館一等書記官（医務官）・遠海重裕博士と東京医科歯科大学ガーナ拠点の大橋光子特任准教授らが、「剖検記録」が野口記念医学研究所事務長室の金庫の中に存在することを確認しました。

2018（平成30）年は、野口英世の没後90年の記念すべき年でした。私どもは、この記念すべき年に、英世の「剖検記録」が英世の身代わりとして故郷に戻ることはできないかと考え、在ガーナ日本大使館に、野口記念医学研究所との折衝をお願いしました。

その結果、野口記念医学研究所のアブラハム・クワベナ・アナン所長のご理解を得ることができ、2018（平成30）年5月、「剖検記録」が公益財団法人野口英世記念会に引き渡されることになり

ました。5月22日の野口記念医学研究所における「剖検記録」引き渡し式には、野口由紀子主任が出席し、アナン所長から「剖検記録」を受け取りました。

猪苗代の野口英世記念館での贈呈式では、アナン所長から、公益財団法人野口英世記念会の八子弥寿男理事長に「剖検記録」が贈呈され、それに対して八子理事長からアナン所長に感謝状が贈られました。

引き続き、来賓として出席されたガーナ大学副学長・パトリック・アイェクミ博士、姫野勉・駐ガーナ日本国特命全権大使、フランク・オチェレ・駐日ガーナ共和国次期特命全権大使、前後公・猪苗代町長から祝辞が述べられました。

なお「剖検記録」は、記念館の特設コーナーに、常設展示されています。



野口英世の生家が 国の「登録有形文化財」に 登録されました

平成30年11月16日に開かれた文化審議会文化財分科会は、野口英世の生家を登録有形文化財として登録するよう文部科学大臣および文化庁長官に答申をしました。これを受けて、平成31年3月29日、「野口英世の生家」が「登録有形文化財」に登録されることが官報に告示されました。

登録有形文化財は、急激な都市化や開発により、文化財としての価値が認識されないまま破壊されていた建造物等を、より緩やかな規制のもとで幅広く国の保護の対象とするために、従来の指定文化財に補充して、文化財登録原簿に登録されるものです。

野口英世の生家は、文字通り野口英世が生まれた家で、英世が16歳の

時、会津若松の会陽医院に住み込むために故郷を離れるまで住んでいた家です。その後も、母シカと姉イヌら家族が住んでいましたが、英世が渡米したのちには、屋根が傾き、土台は腐り、住むには危険な状態になっていました。そのため、シカら家族は隣家を買ってそちらに移り住み、生家は作業小屋として使用していました。

野口英世が1928（昭和3）年にアフリカで亡くなった直後、恩師・友人らにより、野口英世の生涯と業績を後世に伝える顕彰活動を目的として「野口英世博士記念会」（現在の公益財団法人野口英世記念会の前身）が創設され、その最初の事業の一つとして、野口英世の生家を修復して

保存することとなりました。

すなわち、1938（昭和13）年に、茅葺き屋根を保護するため、屋根をトタン屋根で覆うなど、数度の修復・保存工事を行いました。

さらに1981（昭和56）年には、文化庁や国立東京文化財研究所など、文化財の専門機関の助言を受け、大規模な解体修理工事を行いました。この解体修理により、生家があった元の場所に、使用されていた木材等を極力使用し、建築当時の工法により、桁行八間梁行二間半の寄棟造りの生家が復元されました。解体中には、生家の建築が1823（文政6）年であることを墨書した柱が発見されました。また、この解体修理に際しては、トタン屋根を取り除き、茅葺き屋根の上に、現存する鉄骨作りの上屋を取り付けました。

なおこの解体修理工事の記録として「野口英世博士生家解体修理工事報告書」を作成しました。

2011（平成23）年に発生した東日本大震災に際しては、幸い野口英世の生家に大きい被害がありませんでした。

この度「野口英世の生家」が、国の「登録有形文化財」に登録されたことは、世界で活躍した野口英世の生涯を顕彰する上で、大きい役割を果たすものと考え、今後も保存の努力をたゆみなく続けてまいります。



1929（昭和4）年の生家



茅葺き屋根をトタン屋根で覆った時の生家



解体修理工事の様子

野口英世記念館と立志式記念スキー学習

栃木県小山市立小山中学校長 飯嶋 治

栃木県小山市は関東平野のほぼ中央に位置する人口約17万人のまちである。市全域が平坦な上に気候は温暖で雪が少ないため、日常においてウィンタースポーツに親しむ機会は少ない。そこで、どの中学校でも2年生が行う立志式を兼ねスキー学習を行っている。大部分の生徒がスキーを初めて経験するが、地元のインストラクターさんが丁寧に教えてくれるため確実に技術が上達し、3日目の修了証をもらう頃は「やればできる」という実感がもて、意義ある行事になっている。実際、中学校を卒業していく生徒に質問してみると、3年間で最も強い印象に残っているのがスキー学習であったという感想が多い。

ところで、私の勤務した4つの中学校は、すべて猪苗代スキー場を利用してスキー学習を行ってきた。特に平成23年の東日本大震災以降は、「福島復興無くして日本の復興はない」という合い言葉のとおり、福島応援の意味もこめて福島県内のスキー場を立志スキー学習の会場に選んでいる。例えば私の現任校では、「福が満開 福島」の



竹田副理事長の案内で館内を見学

ぼり旗を取り寄せ、福島でスキー学習を行う意義を強調している。これは、私が「福」という漢字



飯嶋 治さん

に強い思い入れをもっていることも大きな理由になっている。つまり、漢字の「福」とは「努力の末につかむ幸い」を言い、棚ぼた式のラッキーを言うのではないことを何かで読んで知っていたからである。人生は好調の時ばかりではない。逆境の時も乗り越えていかなければならない。福島県は現在、逆境を乗り越え復興に努めている途上と言え、隣の栃木県人である中学生には、福島の地で立志式を行う機会に、ぜひ福島の「福」について理解してほしいと願っている。

そんな私にとって、平成30年1月に新たな福島県との縁が結ばれた。長年素通りして縁のなかった野口英世記念館との出会いがあったのである。その経緯は次の通りである。先述したように、福島島の復興を応援するスキー学習という意味で、ここ数年は東日本大震災の体験を地元の方から聞きする企画を取り入れてきた。原発事故の風評被害で宿泊客が全くない日が続いた話や、避難者に客室を無料で提供した経験などを宿泊ホテルの



「野口博士の一日」コーナーにて

関係者からお話をうかがう機会は、それはそれで貴重であった。しかし、ややマンネリ化が心配されるようになってきたことも事実である。「何か立志式に関わる企画はないか?」そう思っていた矢先、ホテル側から耳寄りな情報を得た。それが、ホテルからそれほど遠くもない野口英世記念館がリニューアルしたのでぜひ見学するとよいという話であった。

翌日、早速時間を調節し野口英世記念館を訪問した。幸い竹田美文副理事長が案内してくれたこともあり、この記念館が立志式を行う中学2年生の志に火をつける起爆剤となりうる施設であることがよくわかった。

私は20年ほど前の家族旅行で、小学生の二人の子どもたちを連れて昔の記念館を見学したことがある。その時は、正直言って館内全体の照明は暗く、過去の遺物が展示されているという印象であった。ところが、今回見学してみると明るく美しい照明の下、映像や音響、クイズやゲーム、ロボットまで取り入れ、随所に子どもたちの興味をそそるような展示が工夫されていた。もちろん歴史遺産である英世の生家が当時のまま保存されていたり、英世の苦学努力の跡が残る遺品などは実物がそのまま展示されるなど、過去を尊重する姿勢がベースにある。

一方アメリカに渡って細菌学の研究を進めて行く後半生については、いかにもアメリカ風の劇画

で表現したり、そこにクイズや細菌を探すゲームを取り入れたりして、生徒の興味が高まる展示になっている。この展示の導入部にある細菌学に関する年表には明治時代から今日までに至る日本人の活躍が展示しており、野口英世の時代と現代のノーベル賞受賞者までがつながる展示となっている。

このように記念館を一周すると野口英世を様々な角度から理解できるようになっている。中学校では、平成31年度から道徳科の授業が始まるが、このように偉人を扱う記念館の存在意義は、今後益々高まっていくと予想できる。教員が教材研究をしていく上で重要な拠点だからである。私はこれまで、栃木県を代表する偉人としての二宮尊徳や田中正造を立志式に向けた道徳の授業で教材化してきたが、今回新たに野口英世を教材化して授業を行った。全員が授業の感想を書いてくれたが、例えばある生徒は次のように述べている。「有名な野口英世が生まれた土地に立志スキー学習を通して足を踏み入れることで、幼稚な心も大人の新しい心に生まれ変わり、大人に一步近づけるように頑張りたいです」野口英世の志は、小山市の生徒にも大きな影響力があると期待している。

以上、述べてきたような理由から、「なぜスキー学習で福島まで行くのか?」という問いに対して、「そこに野口英世記念館があるから」と答えるようにしている。

最後に、私が実践した道徳の授業のあらましを紹介する。

私は、記念館で手に入れた本『生誕120年記念 野口英世写真集』を基本に、また記念館で購入してきた色紙や写真を生徒に紹介しながら、学年道徳「野口英世の志」という授業を行った。逆境を次々と乗り越えていく英世の生涯をスライドで紹介することで、生徒の関心は高まっていった。特に、英世の人生の節目節目に登場する恩師の存在に注目させ、英世の向上心が次々と恩師に出会わせたという因果関係について考えさせた。いわゆる「師運」について考えさせたのである。

また、授業では英世の言葉を二つ取り上げた。「努力だ。勉強だ。それが天才だ。だれよりも、三倍、四倍、五倍勉強する者、それが天才だ。」このような英世の言葉は、時代を超えて生徒の心に響くのではないか。もう一つは「志を得ざれば再び此地を踏まず」という柱に刻んだ文字である。これは強い覚悟をもって夢を追いかけよという偉人の残した強いメッセージである。

更に、英世の母シカの手紙を取り上げ、生徒の親への思いを深めるようにした。猪苗代のホテルで行う立志式第二部では、生徒が親に書いてもらった手紙を静かに読む時間が設けられている。その手紙には、自分を出産するまでの経緯や子育ての苦労が記されていて、生徒は親の苦労や愛情を素直に受け止める機会になっている。年頃でもあり、



野口英世のロボットも手振りをまじえて説明

普段は親孝行の言葉をかけられない生徒も多いであろうが、シカの真心があふれた手紙や自分の親の手紙にふれた生徒は親への感謝の気持ちを高め、今度は親への手紙を書く。なかなか親に手紙を書く機会のない生徒たちであるが、立志式の機会に親へ手紙を書く体験は一生の思い出になるようだ。記念館の映像と音声で再現されたシカの手紙コーナーへはぜひ足を運んでほしいと思う。

授業の終末は、野口英世の最後の様子をスライドで追うようにした。アフリカからニューヨークに運ばれた棺が墓地に運ばれる写真と、埋葬されたウッドローン墓地の墓石を最後に紹介した。特

に墓碑に刻まれた英文「HE LIVED AND DIED FOR HUMANITY（人類の為に生き、そして人類の為に死す）」が生徒の印象に残るように演出した。改めて英世の人生を一言で表す荣誉な言葉であると思う。

なお、授業は英世の死で終わらせず、その志を継ぐ人々が世界で、そして日本で活躍されていることを説明し、明るい展望を持たせることにした。1951年にノーベル医学賞を受賞したマックス・タイラーは黄熱病のワクチンを開発したし、日本人のノーベル医学賞受賞者（2015年の大村智氏、2016年の大隅良典氏、2018年の本庶佑氏）が野口英世の「人類の為に生きる」生き方を継いでいる実在の人物であることを紹介した。生徒には立志式の機会に、世のため、人のために生きる「為に生きる」人生の崇高さを感じ取ってほしいと願っている。

本稿を結ぶにあたって、再度墓石の英文に注目したい。「BORN IN INAWASHIRO JAPAN（日本の猪苗代に生まれ） DIED ON THE GOLD COAST AFRICA（アフリカのゴールドコーストで死す）」世界的偉人である野口英世の生まれ故郷猪苗代。スキー学習と立志式をこの地で行い、偉人の熱く尊い生き方に接する絶好の機会にしたい。これが「福が満開の福島県」に私が大いに期待している理由である。

第17回心の手紙コンテスト「母から子への手紙」

あなたに伝えたい思いがある



大賞の手紙を朗読する阿部祥子さん

平成30年12月2日（日）、第17回心の手紙コンテスト「母から子への手紙」の表彰式と、受賞者と猪苗代町民との懇親会が、猪苗代町体験交流館「学びいな」において行われました。当日は入賞者50名の内、19名が猪苗代町を訪れました。

今回も1382通の想いのつまった手紙が全国のお母さんたちから寄せられました。大賞・準大賞・日本郵便賞・優秀賞・佳作に加え、野口英世の母シカの没後100年を記念し野口シカ賞が設けられ、各受賞者が決まりました。

表彰式後には最終選考委員の玄侑宗久さんの記念講演会「鶴と亀の生き方」が行われました。

大賞 阿部祥子さん（大阪府）

菜温な おが小学校に入るとき、お母さんは14年間勤めた会社を辞めました。それを素直に喜んでくれた菜温。でもいつの日か「私のせいでお母さんがキャリアを諦めた」と思うかもしれないので、この手紙を書きます。

「小一の壁」って言葉があるけれど、お母さんは菜温が小学校に入って働き続けるのが難しくなったのではないですよ。実は、どんどん成長していく菜温と色んなお話をしたり一緒に勉強したり、キャッチボールしたりするのが楽しくなって、ある時、お母さんが教えてあげられることがもつともつとある！って気付いてしまったのです。前にも話したけれど、お母さんは勉強も運動も音楽も全部得意だったんだから（笑）

それでお父さんに相談したら「お母さんが一番楽しいと思う道を」って。（お父さんはお母さんが好きなのです。）

だからお母さんは今、毎日が楽しいです。自ら選んだ菜温との時間、そして時々昼寝。

準大賞 渡辺恵子さん（徳島県）

あれは、あなたが高校生の頃。母さんと、駅ビルのエレベーターに乗っている時だった。三階の扉が開いた時、車椅子に乗った男性がいたね。けっこう混んで、一番前に立ってた母さんは、思いつき後ろに下がったけど、車椅子のスペースは確保できなかった。その時あなたは、「早う降りなよ」と、後ろから母さんを外に押し出して、彼が乗り込むまでずっと扉を押さえてたね。扉が開いた後で、「あんたって、偉いなあ」って感心してたら、あなたは呆れ顔で、「僕は歩けるけど、あの人はエレベーターしか選択肢がないんやけん、ほんなん当たり前でえ！」って言ったよね。

あの時、母さんは、後ろに下がることしか頭になくて、自分がエレベーターから降りることなんて、考えてもみなかった……。それまであなたに、「思いやりのある人になりなさい」なんて、偉そうなこと言ってたけど、あなたはとっくに親を超えてただね。長い間気付かなくて、本当にごめんね。

日本郵便賞 吉峯裕美さん（大阪府）

愛する、ことは。家に帰ったら「お仕事、お疲れ様」といつも笑顔で迎えてくれるね。

洗濯物を取り込んだら、いつの間にかたんでくれるし、ご飯の後、「おしかったよ、ありがどう」と言ってくれるのは家族の中でことばだけだよ。不機嫌な時がなくて、誰かを傷つけたり決してしない子。学校で友達が叱られてたら、素っ頓狂なことを言って先生の気をそらすらしいね。先生が苦笑しながら教えてくれたよ。

生まれた日にダウン症の疑いがあると言われ、ショックで将来を悲観したけれど、十五年育ててみたら、いろいろ手はかかるけど、なんてやさしい陽気な子。

「一家に一人、ダウン症の人がいたら、世界から戦争なんてなくなるのに」とパパは言ってる。ママも生まれ変わったらまたダウン症の子を育てたいと今は思うよ。

大丈夫。あなたならみんなに愛される。きっと幸せになれる。いつか「誰かの役に立ってる」と感じて生きられるように、まだまだ一緒にがんばろうね。

野口シカ賞 山下由喜恵さん（岡山県）

仲のよき 母子と愛めてカメラを向けし
彼の青年よ 今はいづこに

これはあなたが大学を卒業して、母さんと一緒に九州旅行をしていた時の 阿蘇の火口あたりで、見知らぬ大学生らしき人からの言葉のプレゼントです。二人の会話を聞き乍ら、感じられたのでしょうか。

結婚して三年 二人の男の子にも恵まれて このま、幸せの続く事を希っていたのですが 夫に召集令状が来て、夫はそのま、帰って来ませんでした。夫を失い、きびしい農家の生活に又しても心がくじけそうになりましたが こうした時、何時も思い出すのが『僕らはお母ちゃんさえいたら、ちいっともつらい事はない』の一言でした。賢く働く者のきびしい祖父の躰けにも、すべてさからう事なくすべて従順でしたので大変助かりました。この母を信じて頑張ってくれた子供の姿を見て、私も頑張る事ができ、現在も二人の子供に守られて、満百才の生活を、それなりに楽しんでます。



入賞されたみなさん

猪苗代からの電話

第16回 母から子への手紙コンテスト 大賞受賞者 城田 由希子

十一月のある日、電話が鳴った。

「母から子への手紙の大賞に、城田さんの作品が選ばれました。おめでとうございます。十二月三日が表彰式です。ぜひお越しください」

猪苗代の担当の方の心地よい声が聞こえる。

「ありがとうございます」

「詳細は追って書類でお知らせしますね」

優しい口調で、でも手慣れた説明で電話は終わった。私は電話を持ったまましばらくたたずんでいた。

一か月前、受験生の息子への手紙を書いて応募した。合格したらカラオケに行こうという内容だった。手紙の結果が出たらしい。内容を確かめようとパソコンを開き、原稿を画面に出した。

一瞬間まった。内容は思い出した通りだったが、文体が記憶とは違う。最初は標準語を使って書いた。書き終えて声に出して読むと、息子への手紙にしては、なんだか他人行儀だ。そこで内容は変えずに関西弁に直して送ったことをすっかり忘れていた。

電話から一か月後の十二月、夫と猪苗代へ向かった。奈良から近鉄、東海道新幹線、東北新幹線と在来線に乗って約六時間。猪苗代駅に降り立つと、雪の塊があちこちにあった。出迎えてくださった方によると、一週間前に、たった一日で五十センチもの雪が降ったそうだ。全国ニュースで紹介されたほど、この時期では珍しい暴風雪だったらしい。

到着したホテルリステル。今回は二度目の訪問だった。実は、家族で十一年前の夏、併設のハー

ブ園と昆虫展示を観たのだった。

「このホテルに泊まりたい」

当時子どもたちが言い、私もそう思った。

「今度来たときは、このホテルに泊まろうね」

今、まさに目の前にそびえ立つ豪華なホテル。偶然にも事務局が用意してくださった夢のような出来事。部屋からの眺めは良く、大きな窓からはハーブ園が見渡せた。あの日は酷暑の中、汗をかきながら大きなひまわりを写真に撮った。今夜は雪に覆われて真っ白で幻想的だった。

表彰式で作品を朗読するようお願いされていた。私は関東出身で中途半端な関西弁しか話せない。関西出身の夫は、私のアクセントが関東出身の俳優が喋る急ごしらえの関西弁に似ている、あのムズムズする感覚と同じだと言う。夫に聞こえないように小さな声で一度だけ原稿を読む。相変わらず関西弁は下手だが、私なりに朗読できればそれでいい。ゆっくり読むことを心がけよう。

表彰式は、磐梯山の麓にある猪苗代町体験交流館で行われた。真っ青な空に真っ白な雪のコントラスト。心に残る美しい風景だった。この時期、こんなに快晴の日は数えるほどしかないと教えられ、天候にも感謝した。

受賞者が賞状を受け取った後、司会者が言った。「ここで大賞受賞者に特別賞の贈呈です」舞台袖から担当の方が登場した。担いでいたのは米俵。

「城田さん、舞台へどうぞ」

私は拍手喝采の中、おそわずと舞台へ行った。担当の方が私に囁く。

「実際にお米は入っていないから軽いです。一緒に持って写真に収まりましょう」

生まれて初めて持つ米俵。一生の思い出になった。朗読は、なんとか私らしくできた。

大石先生の講演には心打たれ、私を含む多くの人が涙していた。

懇親会では、地元のお母さん方のおいしい手料理の数々をいただき、皆さんの温かさに触れ、胸がいっぱいになった。

後日談だが、昔の同僚からメールが届いた。

「野口英世記念館で城田さんの手紙を今、読んだところ。おめでとうございます。ところで、息子さんのカラオケはどうだった？」

私は驚きながら返信した。

「ありがとうございます。カラオケは来年までお預け。あなたもお子さんへの手紙を書いてぜひ応募してね」素敵な猪苗代を知ってほしくて、友だちに会うたびに手紙の応募を勧めている。



野口英世記念館の動向

大村智先生 野口英世記念館来館

平成30年4月13日

野口英世没後90年記念講演会に先立ち、前日の4月13日に大村智先生が野口英世記念館に来館されました。

感染症研究の歩みのコーナーでは、北里柴三郎博士の研究やお人柄について大村先生がお話し下さいました。また、当日は野口英世の帝国学士院賞恩賜賞の授賞経緯に関する資料をお持ちくださいました。

大村先生は、「野口英世は子どものころからのあこがれの研究者で、いつか野口英世のように世の



見学する大村先生

中の役にたつ研究者になりたいと思った。ガーナを訪れた時胸像を見て『ありがとう』と感謝の言葉が出た」と野口英世への想いをお話しになりました。



野口英世と大村先生

野口英世没後90年記念命日祭

平成30年5月21日

野口英世博士の命日である5月21日に、野口家の菩提寺である長照寺において、野口英世没後90年記念命日祭が執り行われました。野口英世の縁者、猪苗代町長、猪苗代町教育長、野口英世記念会の役員を始め多くの参列者に加え、東京より駐

日ガーナ共和国大使も参列されました。参列者は、長照寺住職の読経のあと焼香を行い、英世の冥福を祈りました。ガーナ共和国では亡くなった方を弔うため霊前で太鼓を演奏する風習があることから、在日ガーナ共和国大使館の関係者が、太鼓を演奏してくださいました。

命日祭の後、野口英世至誠館において、命日祭記念講演会として、日本マチュピチュ協会会長の



命日祭で太鼓を演奏するガーナ大使館の関係者たち

野内セサル良郎氏が「世界遺産マチュピチュ村を創った日本人・野内与吉の生涯」と題する講演を行いました。かつて英世は、黄熱病の研究のためにペルーを訪れましたが、野内与吉も英世と同じように、かつてペルーで活躍した福島県人です。大玉村で生まれ、1917年にペルーへ移住し、当時わが国では知る人の少なかったマチュピチュで鉄道・水路などのインフラを整備し、その後の観光地の礎をつくり、1939年には初代村長となりました。波乱に満ちた野内与吉の生涯を紹介した野内セサル良郎氏は与吉の孫です。世界遺産の中でも特に人気のあるマチュピチュの開発に、日本人がかかわっていたことを、来場者は驚きをもって聞いていました。



野内セサル良郎氏の記念講演会

野口英世メキシコ訪問100年記念行事
 ー高瀬寧・駐メキシコ日本国特命全権大使来館
 平成30年6月20日



版画「氷の翼」の贈呈

2019（平成31）年は野口英世が黄熱病の研究のためメキシコを訪問してから100年の年になります。メキシコでは日本大使館、日墨協会や在留の日本人の方が野口英世来訪100年の記念行事を計画しています。その一環として、メキシコで福島県の復興を応援する「がんばっぺふくしま」の活動をする橋本由浩氏が、版画家の庄漫氏に英世のふるさと猪苗代湖の風景「氷の翼」の制

作を依頼し、メキシコの野口英世地域研究センターや日墨協会に寄贈しています。

6月20日、駐メキシコ日本国特命全権大使・高瀬寧大使が橋本由浩氏と共に来館され、来年の野口英世メキシコ来訪100年記念行事について説明をされ、「氷の翼」を寄贈してくださいました

さらに10月5日には、「氷の翼」の作者である庄漫氏と日墨協会の和久井伸孝会長らが来館され、9月に行われた野口英世メキシコ来訪100年記念行事のイベントについてお話をされました。

**猪苗代町の小学校のみなさんが
花を寄贈してくださいました**

平成30年6月21日・8月22日

猪苗代町内の小学校の児童のみなさんが育てた花を、記念館に寄贈してくださいました。

まず6月21日に、緑小学校の「緑の少年団」のみなさんが、パンジーなど色とりどりの花の鉢植えを寄贈してくださいました。ついで8月22日には、翁島小学校の「小さな親切広げ隊」のみなさんが、夏の象徴のようなヒマワリの鉢植えを寄贈してくださいました。これらの花の鉢植えを置いた記念館の中庭は、パツと明るくなり、来館者の目を楽しませてくれました。



翁島小学校「小さな親切広げ隊」



緑小学校「緑の少年団」



特別展示室での展示

野口英世没後90年記念特別展開催

平成30年3月21日～平成31年1月13日

野口英世の没後90年を記念した特別展を、野口英世記念館1階の特別展示室において開催しました。

◆特別展Ⅰ（平成30年3月21日～7月8日）「野口英世博士逝去セラル～アフリカからの訃報～」

新聞報道や関係者のコメントから、野口英世の訃報と追悼の様子を紹介しました。

◆特別展Ⅱ（平成30年7月9日～9月30日）「野口英世最後の闘い～黄熱病撲滅をめざし～」

野口英世が逝去直前まで黄熱病研究に取り組ん

だ姿や、逝去後の世界の黄熱病研究について紹介しました。

◆特別展Ⅲ（平成30年10月1日～平成31年1月13日）「野口英世が遺した絆～現在に残る野口英世の足跡～」

野口英世が生前訪れた中南米・アフリカの各国に残した足跡や現在まで続く交流・顕彰の姿を紹介しました。

なお特別展示室では、初公開の野口英世直筆の書4点と、6月にガーナ大学野口記念医学研究所より寄贈された「野口英世博士剖検所見記録」を特別展示するとともに、野口英世の黄熱病研究をわかりやすく紹介する映像「黄熱病との闘い」を映写しました。

トリックアート写真スポット設置

平成30年8月9日

野口英世没後90年記念事業の一つとして、会津大学短期大学部産業情報学科デザイン情報コースの高橋延昌准教授の研究室のゼミ生とのコラボレーションで、トリックアートの写真スポットを新設しました。ピペットをもって研究する野口英世のイラストは、少し離れた場所からファインダーをのぞくとトリックアートの効果で立体にみえます。野口英世のイラストの前にあるテーブルにすると、まるで英世と一緒に実験をしているよう

です。来館者は位置や角度を工夫しながら、英世と一緒に写真を撮って楽しんでいました。



トリックアートで写真撮影

大学生の博物館実習

平成30年8月6日～10日

大正大学歴史学科の学生1名が、8月6日から10日までの5日間、記念館で博物館学芸員実習を行いました。記念館の職員が、博物館学芸員の業務としての資料の取り扱いや、マネジメントなどを指導するとともに、講話をしました。また、近隣の美術館や水族館なども視察し、各館の学芸員に、歴史系の博物館との違いや課題などを説明してもらいました。



受付業務を経験する実習生

猪苗代中学校2年生の職場体験学習

平成30年9月12日・13日

猪苗代中学校の生徒9名が記念館で職場体験学習を行いました。生徒たちは受付での接客業務、頒布品の販売準備作業などを実際に体験しました。また、実際に記念館を運営する職員の立場の目線となつて、改善策や運営イベントを理事長・副理事長に提案するプレゼンテーションを行いました。



頒布品の準備作業を行う生徒

若者の新しい思考から出た提案は、職員も感心する興味深いものもありました。

おもてなし企画開催

学校の長期休暇や連休に開催

来館者の満足度を高め、記念館での想い出をたくさんつくってもらう目的で、学校の長期休暇や連休の際に、おもてなし企画を開催しました。「ワークシート」や展示解説の「ピンポイントガイド」などは展示をよりわかりやすく理解する助けとな

り、「オリジナル缶バッジ制作体験」や野口英世になりきって写真が撮れる「なりきり英世博士」は来館の想い出を膨らませる企画となっています。また、セミナースタイルで行う「感染症の話や「野口英世サマーキッズ」は、関心の強い方が、より詳しく野口英世や感染症について知ることができるとたいへん好評でした。



缶バッジ制作を楽しむ来館者

第142回誕生祭

平成30年11月9日

第142回野口英世誕生祭を11月9日に野口英世至誠館で開催しました。野口家の菩提寺である長照寺の楠俊道住職の読経の後、来賓により献花が行われました。野口英世の後輩にあたる翁島小

学校4年生のみなさんが、唱歌「野口英世」を元気に合唱してくださいました。



「野口英世」を合唱する翁島小学校4年生

ガーナ共和国大統領来館

平成30年12月13日

12月10日に来日したガーナ大統領、ナナ・アド・ Dankwa・アクフォ・アド閣下は、天皇陛下とのご会見、安倍総理との首脳会談などを行い、13日に猪苗代町に来町されました。アド大統領は、記念館で翁島小学校の児童の盛大な歓迎を受けられ

た後、野口英世の生家や開催中の特別展「野口英世の遺した絆」などを視察されました。これまでに記念館を来訪された元ガーナ大統領のローリングス閣下とクフォー閣下の写真や、ガーナ大学より寄贈された野口英世博士剖検所見記録などを熱心にご覧になられていました。視察の後、アド大統領は「日本とガーナの友好関係を日本に来てあらためて感じ、信頼のおける、誠実なパートナーとして今後もこの関係を発展させたい。記念館を訪れ非常に光栄であり、野口の生涯に感銘を受けた」と感想を述べられました。



展示をご覧になるアド・ガーナ大統領

各地で行われたイベント

羅羅屋ランドセル展示会

平成30年6月10日

TRAIN SUITE四季島

平成30年4月15日～11月25日



四季島のお出迎え

JR東日本が運航する周遊型臨時寝台列車TRAIN SUITE四季島が猪苗代駅に停車するのに合わせて、記念館のPRを兼ねて歓迎の出迎えを行いました。記念館広報大使ヒディと職員がPRパネルをもち、乗客のみなさまに手を振って歓迎しました。猪苗代駅周辺は磐梯山の眺めも良く、乗客の方は、盛んに磐梯山やヒディの写真を撮っていました。豪華列車の楽しい旅の思い出の中に、ヒディと野口英世記念館も加えていただけたことと思います。



ヒディと触れ合う子ども達

会津に工場をもつ羅羅屋株式会社のランドセル展示会が新潟市の新潟日報メディアシップで開催され、展示会場に記念館広報大使ヒディが登場しました。たくさんの新入生の保護者の方が真剣にランドセルの品定めしている中、ヒディが登場すると、子どもたちはヒディのもとに駆け寄ってきて、ふれあいを楽しんでいました。

山梨県甲府で野口英世記念展

平成30年7月18日～8月12日

野口英世没後90年を記念し、NPO法人甲府駅北口まちづくり委員会が主催となり、山梨県甲府市で野口英世展「人類のために―世界の医学者野口英世の生涯」が開催されました。会場となった甲府駅北口にある藤村記念館は、指定重要文化財となっている旧学校校舎で、明治初期の擬洋風建築の赴きある建物です。多くのパネルや胸像、映



会場となった藤村記念館

像で野口英世の生涯を紹介しました。開催時期の甲府市は連日30度を超える猛暑でしたが、多くの来場者が野口の生涯と業績に想いを寄せていました。

極上の会津フェスティバル

平成30年7月28・29日、10月27・28日

会津の魅力福島県外の方に知っていただくため、宮城県仙台市の勾当台公園と神奈川県横浜市の「ららぽーと横浜」において、「極上の会津プロジェクト協議会」の主催で「極上の会津フェスティバル」が開催されました。「極上の会津プロジェクト協議会」は猪苗代町を含む会津地域の17市町村が、協力して観光客の誘客拡大や観光・産業の発展、地域振興を行う組織で、「極上の会津フェスティバル」では、会津の特産品やグルメの販売、観光PRなどが幅広く行われました。ステージイベントではクイズ大会もあり、会津ご当地クイズに正解した来場者にはプレゼントが贈られ、大いに盛り上がっていました。記念館では、PRブースでオリジナルグッズを販売し、記念館の見どころを紹介するとともに、ステージ上で記念館広報大使ヒデイがPRを行いました。



野口英世記念館のPRブース



日本テレビ「24時間テレビ」

平成30年8月25日・26日

日本テレビで毎年放送される24時間テレビ「愛は地球を救う」の新潟会場で、野口英世記念館のPRブースを出展しました。会場は新潟市の繁華街の万代シティーで、歩行者天国に多くの企業やご当地グルメのチャリティーブースが軒を連ね、来場者は楽しみながらチャリティーに参加していました。



24時間テレビのチャリティーブース

ハイウェイフェスタ

とうほく2018

平成30年9月22日・23日

高速道路を管理運営するNEXCO東日本東北支社が主催するハイウェイフェスタとうほく2018が仙台市勾当台公園で開催されました。東北6県の地域間交流の促進と東北の魅力の再発見を目指すイベントで、郷土芸能やご当地グルメが集結しました。野口英世記念館も極上の会津プロジェクトの一員として会津地域の観光と記念館のPRを行いました。



会津の観光PRブース

イオン会津フェスタ2018

平成30年9月28日・30日、11月2日・4日



ショッピングモールに設置されたのPRブース

会津の魅力を紹介するイオン会津フェスタ2018が、今年も各地のイオン店舗で開催されました。記念館では、イオンモール新浦安とイオンレイクタウン越谷でのフェスタに参加しました。今年は、ブースにテレビを設置し、記念館の

PR動画を放映しました。多くの来場者がテレビの前で足を止め、熱心に動画を見ていました。以前に記念館に来られた方の中には、リニューアルした記念館の様子に驚いておられる方もいらっしゃいました。ステージでは子どもからおとなまで楽しめる野口英世紙芝居を披露し、野口英世の生涯をわかりやすくご紹介しました。

しらかわキャラ市

平成30年9月29・30日

全国のご当地ゆるキャラ、ご当地萌えキャラ、ご当地ヒーローが集う「しらかわキャラ市」が白



ヒディとロボばんじいの2ショット

河市総合運動公園で開催されました。あいにくの小雨模様の中、140をこえるキャラたちがご当地をPRするためブースやステージでパフォーマンスを披露しました。

全国でも人気のある「ふなっしー」や「ひこにゃん」のステージには朝から入場整理の列が並ぶほどの人気でした。記念館広報大使ヒディも、ステージや会場をまわり、多くの方に一緒に写真を撮ってもらいました。ブースではオリジナルグッズを販売し、記念館のPRを行いました。

新潟市で野口英世記念展と 猪苗代観光物産展開催

平成30年10月18・19日

新潟市の新潟日報メディアシップにおいて「野口英世記念展と猪苗代観光物産展」を開催しました。新潟県の人たちに野口英世記念館のことを知っていただき、来館されるきっかけとなることを期待した催しです。

展示では野口英世の大正4年の新潟訪問や、新潟県人である親友石塚三郎との交流など、野口英世と新潟県のゆかりの深さを紹介しました。物産展にはお酒やスイーツなど猪苗代の美味しい特産品を出品し、猪苗代町の魅力を伝えました。来場

者のなかにはリニューアル以前の記念館を昔訪れたと言つてくださる方も多く、現在の記念館の魅力の説明に耳を傾けていただきました。



展示をご覧になる来場者



野口英世記念館見学感想文

野口英世記念館では平成26年度より「野口英世記念館見学感想文コンテスト」を始め、今年で4回目を迎えました。修学旅行や遠足など学校行事で、ご来館された、たくさんの中小学生がそれぞれの思いをこめた感想文を書いて送ってくださいました。優秀賞の感想文をご紹介します。

「大好きな野口英世」

福島県西郷村立小田倉小学校 4年

藤田 美咲さん



「千円さつの顔の野口英世って、どんな人なんだろう?」

私は、記ねん館で英世について学べることを楽しみにしていました。

私が心にのこったことが三つあります。一つ目は、英世がど力家であること、二つ目は、人を病気からすくおうと熱心に研究したこと、三つ目は、英世と母シカのおたがいを思う愛じょうです。

英世は、左手に大やけどをして友達からいじめ

られますが、成せきが一番でした。また、家はまじしいけど手の手じゅつの成功で、医者になろうと決意します。どんなつらいときでも自分の目標をもってど力し続けた英世のことを、私も見習いたいと思いました。

私は、水泳や英語のし験に落ちると、「何もやりたくない。」と思うときがあります。しかし、見学で学んだ英世の熱心な気持ちをきつかけに、私も英世のようにどんな小さなことでも決心したらあきらめず必ず達成できるように、ど力しようと思いました。

私は、絵をかくことが大好きなので、しよう来はマンガ家になっていろんな絵をたくさん描いてたくさんの人にってもらいたいのです。そのためにも、絵の上達はもちろん、国語や算数なども大切なので、毎日まじめに学習に取り組みたいと思います。そして、むずかしいか題にも全力でチャレンジしていきたいと思います。

最後に、私は英世と母シカが二人で写っている写真が好きです。英世が母シカを大切に思っている

ることがとても伝わってきます。私の父と母が家族のために働いてくれているので、感謝の気持ちをわすれずにいたいと思います。今度は、家族で野口英世記ねん館におとずりたいです。

「野口英世記念館」

宮城県美里町立小牛田小学校 6年

岩淵 督之さん



ぼくは、野口英世記念館に行く前から野口英世の一生について思ったことがあります。

まず、なぜ子どもだった野口英世が小学校に通って手ん棒と言われいじめられていた時に母親のシカさんにはげまされただけで立ちなおれたか分からなかったのですが、野口英世記念館に行つて母親のシカさんの言葉がその時の野口英世には、けっこうな重みのあるはげましの言葉だったんだなとぼくは、思いました。

次に、思った事が野口英世が病気の研究を始め

族が心配しなかったのだろうと思っていました。

シカさんの手紙には、シカさんの深い思いは書いてないだろうと考えていて、研究をがんばっていると、進んでるとかしか書いてないんだろうなと思っていました。

ですが、野口英世記念館に行つてシカさんの野口英世への深い思いを知り自分の考え方のみじゅくさを教えられました。

シカさんの手紙は、深くは見ていないので分からない事も多かったですが、一言だけ深く残っている言葉があります。それは、早く帰つておいでよ、その一言の言葉は、かなり重いのだと、ぼくは思いました。

野口英世は、その手紙を見て家族の大切さを改めてより深く実感できたのではないかと、ぼくは思います。

そして、ぼくも野口英世のように家族が後ろにいるというありがたさと大切さをより深く知れましたし、母親からの手紙は、時に自分を強くしてくれたり、時にはげましたりしてくれる事が良く分かりました。



「努力する事の大切さ」

宮城県気仙沼市立小泉小学校 6年

及川 真弥さん



「志を得ざれば再び此地を踏まず」

この言葉は、「志を達成しなければ、故郷にはもどらない」という意味です。私が、疑問に思い、また、一番心に残る言葉です。英世は赤んぼうの時に大やけどを負い、左手が不自由になった事と、家が、貧しかったために、「てんぼう」とからかわれていじめられました。ですが、英世は負けずに見返すために、熱心に勉強をし努力します。その結果、21歳という若さで医者という子供の頃に持った志を達成することができたそうです。私はいじめられても、いじめられた事の悔しさと悲しさと、母シカさんの言葉をバネに努力して医者になる事が出来たと知った時、努力する事の大切さを学びました。

医者になってから、数々の病原体を研究し、黄熱という伝染病の病原体を九日で見つけました。ですが、英世も黄熱にかかり五十一歳で亡くなつてしまいました。私は、世界中の病氣から人々を救った英世は、世界中の人達の医者だと思えました。

私は、修学旅行で会津の野口英世記念館に行きました。そこで初めて知った事があります。それは、

なぜ、野口英世は千円札の人物画に選ばれて良かったのか、という事です。答えは、野口英世口ポットに教えてもらいました。「千円札は人々によく使われる。」という言葉に言っていました。

私は、「志を得ざれば再び此の地を踏まず」という言葉は、「努力してぜったいに医者になってやる」、医者にならないければ大好きな家族には二度と会わない、そのくらいの覚悟をして柱と心にぎざんだのだと思います。

私は、将来看護師になるという志を持っています。なので、野口英世のように努力したいと思いました。野口英世さん、努力する事の大切さを教えていただき、ありがとうございました。

「努力を惜しまなかった野口英世」

新潟県新潟市立根岸小学校 6年

堤 賢人さん



修学旅行の時に、野口英世記念館を見学させていただきました。ありがとうございます。ぼくは、見学する前から伝記を読んで野口英世のことを調べていました。そこで分かったのは、「貧しい農家で

育った」ということです。これを読んで、「なぜ、めぐまれない環境で育ったのに有名になれたのかな」と思いました。でも、見学をしてその理由が分かりました。今回は、そのことについて書きたいと思います。

まずは、英世の子供のころについてです。英世は、小学校に入るためのお金が足りませんでした。でも、母が一生けん命働いたことで行けるようになりました。しかし、一才の時の火傷や貧しかったことで、みんなからいじめられてしまいます。でも、母のはげましによって勉強をがんばり、小林栄先生にみとめてもらったため、高等小学校に入学することができました。これが、偉大な博士への第一歩でした。

次に、研究したことについてです。野口英世は、黄熱病の研究をしていました。資料には、この研究の中で英世自身も黄熱病にかかって亡くなったと書いてありました。でも、英世の研究のおかげで、たくさんの人が助かりました。英世が亡くなってしまったのは残念でしたが、そのおかげで黄熱病の患者の命を助けることができました。だから、英世はたくさんの人を助けたことで有名になりました。

今回の見学で分かったことは、主に二つあります。「母の努力があったから学校に入学できた」ということ、「たくさんさんの力を借りられたから、有名な博士になれた」ということです。

改めて、野口英世のすごさを実感できました。ぼくも、たくさんさんの役に立てるように、努力したいです。

「千円札にこめられた

野口英世の思い」

宮城県仙台市立袋原小学校 6年

松田 優舞さん



私は、修学旅行で野口英世記念館に行きました。正直、私は野口英世には、全然興味がありませんでした。しかし、実際に行ってみると、野口英世は私の想像していた人とは、まったく違いました。野口英世のことで、今でも心に残っていることが二つあります。

一つ目は、野口英世は、たくさんさんの努力をしてきたということです。私は、五才の時からピアノを習っています。でも、オーディションなどで合格するのは、いつも私の友達です。私は、人には「才能」というものがあると思っています。でも、野口英世の研究を見て、人は「才能」ではなく、「努力」ということが必要なんだと思いました。左手が不自由ということがありますが、努力を積み重ねることで、野口英世は世界でも認められる、すごい人になりました。左手のことだけでも大変なのに、ふつうの人よりもすごいことをした野口英世は、今も心に残っています。

二つ目は、野口英世は、とても熱心な人だということです。とくに、黄熱病の研究は、とてもすごいなと思いました。それまで原因不明の病気を研究するなんて考えられませんでした。さらに、エクアドルやガーナなどの遠い国に、家族たちとはなれて行くなんて、私だったらイヤだったと思います。最後は、研究していた黄熱病にかかってしまい、野口英世は生涯を終えました。最後まで人の役に立つために、研究をしていたなんてカッコいいなと思います。私は、この十二年間、何かに熱心に取り組むことをしなかったので、今後は、野口英世のように、何かに熱心に取り組みたいです。

この二つの他にも、たくさんさんのことを学びました。今まで私が思っていた野口英世とは別人のように、輝いています。今まではあまり使っていた千円札には、野口英世の気持ちがかめられているんだなと思いました。私も、野口英世のような輝く大人になりたいです。



「野口英世の生涯を知れた記念館」

宮城県石巻市立大街道小学校 6年

三浦 愛さん



修学旅行で野口英世記念館へ行きました。そこで、野口英世の生涯を知り、野口英世の世界観に引き込まれました。

まず、実際の家の中を見学したら、いろりに落ちた英世や家の中の柱に刻んだ文章など、自分が知らなかった一つの事が知れました。

「志を得ざれば、再び此地をふまず」という柱に刻んだ文章を読んだとき、私の胸はすごく熱くなりました。

次に、記念館の二階を見学しました。二階では、英世の恩師の紹介や実験、母シカさんからの手紙、実際英世が使用した物など、英世の生き生きとした生涯を一番感じられた場所でした。そして、英世のロボットが実際に私たちに話しかけたりして、おどろきました。英世のロボットは、千円札に自分の顔が描かれていてどう思ったか、妻のメリーさんからなんて言われていたのかなど、話していました。また、感染症の治療と予防の現在についてや英世の活動についてなど、いっぱい学びました。最後に一階を見学しました。一階では、英世の

展示室や観光グッズや自分も英世になれる英世のひげ、白衣があり、みんなで楽しめる工夫がありました。展示室には、英世についての事がくわしく展示されていました。

そして、野口英世の記念のスタンプをおして、会津の記念の一つになりました。観光グッズは、野口英世記念館に観光に来た人に向けてのグッズがありました。

一階と二階で英世についてよく調べ、色々な体験が出来ました。細菌の研究の事がよく知れました。野口英世記念館に行ってみて、野口英世の生涯が描かれ、現在の私たちに大きく爪あとを残し、英世は私たちに大きく印象をあたえ、体験する大切さと何事にもチャレンジをする大切さがよく感じられました。私にとって忘れることのない経験となりました。

「やっぱりすごい人だった」

宮城県栗原市立金成小中学校 6年

山崎 朝香さん



「千円札に印刷されている野口英世が生まれた場所に行ける。」

このことは、修学旅行で私が楽しみにしていたこ

との一つでした。学校でも英世についてたくさん調べていましたが、実際に生活していた家を見て、実物大の英世と話をすることができ、大きな感動と喜びがありました。

はじめに生家に行き、英世が1才半の時に大火傷をしたいろりを見ました。母の農作業中にいろりに落ちたというのはこのことか、と思い、じっくりと見ました。部屋は少なくても、英世の家は貧しい農家だったということがよく分かりました。貧しい生活の中で、英世の母は、当時お金持ちしか行けなかった学校に英世を通わせ、左手が不自由だった英世にきちんと勉強をさせていて、すごいお母さんだと思いました。

記念館では、英世が研究した細菌や病気についてくわしく紹介されていました。自分で調べて知っていたこともありましたが、実際に見てみると、目に見えないような大きさの細菌について調べ、たかさんの研究成果を収めていることにおどろきました。

私は、最後に、母が英世に向けて書いた手紙を見ました、何と書いてあるのか読みづらかったけれど、字の書けない母が、「会いたい。帰ってきてほしい。」ということ、一生けん命伝えようとしていることが分かり、感動しました。今も昔も、お母さんの子どもへの思いは変わらないのだなと感じました。

英世のロボットが、「渡部かなえ先生に、手の傷だけでなく心まで救われた。」と答えていました。英世は、貧乏で大けがをして大きなハンデがありました。生涯たかさんの人に愛されて、助けられて、そして、自分自身も努力を続けて成功した人なのだと知り、改めてそのすごさを感じました。

出前授業に行きます！

野口英世記念館では、修学旅行で野口英世記念館の見学を予定している小中学校へ、あるいは修学旅行の宿泊先へ、野口英世記念館の職員が出向いて、野口英世の生涯と業績を分かりやすくお話しする出前授業を行っています。

平成30年度は、96校で出前授業を行いました。いずれの学校でも、児童・生徒の皆さんが、熱心に話を聞いていただきました。たくさんいただいたお礼のお手紙の中から、5通を選んでご紹介します。

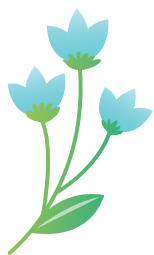


宮城県大和町立小野小学校 6年

泉谷 若菜さん

ビデオや本でみたよりも、じょうきょうや部屋のつくり、母がいなくて清作がいた場所など、とても分かりやすかったです。私は、実際に野口英世記念館に行った時に、全ての野口英世のことの詳細を時間内にメモし、教えてもらった事を思い出し、ふく習しながらたくさん学んでいこうと思います。野口英世が15年アメリカにいて、帰ってきたその後のことも知ることができました。野口英世が生まれてから亡くなるまでの事をたくさん教えていただき、ありがとうございました。

出前授業に来ていただき、ありがとうございます。野口英世について、たくさん学ぶことができました。知っていることや、知らなかったことをたくさん学習できました。最初の清作がいろいろに落ちた話では、教科書や



宮城県仙台市立木町通小学校 6年

伊東 大河さん

遠いところ、わたしたちのために、わざわざ講和をして来ていただき、ありがとうございました。

お話から、1才半で左手をやけどし、それを理由にいじめられていたなかで、しょう来偉人になることを決心し、その後の様々な出来事での英世の心情がよく分かりました。農村で一番貧乏な家に生まれ、最後には（亡くなった後）お札のつてしまうなんて、まるで明治・大正の豊臣秀吉ですね！！ぼくは、英世のように人々を助けられる人が大好きです。ぼくも、英世のようになりたいです。

今日の講和でたくさんの方が分かり、記念館で、英世について調べるのが、とても楽しみになりました。

埼玉県白岡市立西小学校 6年

大下 もえぎさん



おいそがしい中、遠い福島から白岡の西小学校まで来て、野口英世について授業をしてくださり、ありがとうございます。とてもくわしく教えてもらい、うれしかったです。

私は今まで、「野口英世」千円札にのっているすごい人」ということしか知りませんでした。小さい時から、千円札にのっている人は何でされるんだろう？と思っていました。すごいことをしたのだから、どんなことをしたのかまでは、あまり知りませんでした。でも、分かりやすく教えてくださいましたので、今まで知らなかった野口英世のことを、よく学びました。幼いときの左手のやけど、家の貧しさややけどが理由のいじめにあったこと、左手の手術、細菌学の勉強、アフリカのガーナの黄熱病の研究をし、自分も黄熱病にかかってしまったことなど、とてもくわしく分かりました。

その中でも、特に心に残っているのは、幼いときのやけどと家の貧しさを理由にいじめられても、決してお母さんには心配をかけなかったり、左手の手術をしたことで自分も医者になると決意し、たくさん勉強をしたことです。私だったら、いじめられたら、たえられないと思うし、助けてもらっ

たから、今度はたくさんの人を助けたいと思えてすごいと思いました。又、自分もそのようになり、多くの人のためになる仕事をしたいです。どんなときでも、野口英世を忘れずにいたいのです。修学旅行で「野口英世記念館」に行くのが楽しみになりました。

宮城県仙台市立沖野東小学校 6年

小岩 可歩さん



出前授業に来ていただきありがとうございます。た。

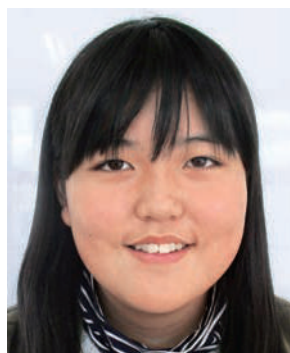
私は、野口英世の事は、なぜ、有名になったのだろうと思っていました。そして、話を聞いて、野口英世は、なぜ、有名になったのかが分かりました。

私がびっくりしたことが4つあります。

1つ目は、小さい時の名前が清作という名前だったということ。野口英世として知られていたたので、びっくりしました。2つ目は、野口英世の家は村一番の貧乏だったことです。野口英世は、こんなにも有名だから、びっくりしました。3つ目は、野口英世がいじめられていたことです。そして4つ目は、左手をけがしてしまったから、写真のときは、左手をかくしていたことです。

宮城県仙台市立桜丘小学校 6年

佐藤 結菜さん



遠い所からわざわざ出前授業に来てくださり、ありがとうございます。修学旅行用のパンフレットをもらうまでは、野口英世が会津の人とは知らず、ただ、千円札の人のイメージしかありませんでした。

修学旅行のための調べ学習では、まだ1才半だった野口英世が、いろいろにおち左手がくっついてしまったことを知り、なぜそんな手をけがしていても歴史に残る人物になったのか不思議に思っていました。けれど、お話を聞き、なぜそんなにすごい人なのか分かりました。1つ目は学校での生活です。左手のことで友達から笑われていたのにくじけずにいたのが、とてもすごいと思いました。2つ目は、自分の命をぎせいにしてまで黄熱病の研究をしたことです。アメリカに研究所があったり、今のガーナ共和国などについて黄熱病のことを熱心に研究していて、最後には、自分も黄熱病にかかって亡くなってしまったけれど、細菌学者としてすごい事を達成した人なんだなと思い、手をけがしていても、こんな事ができるんだなと思いました。修学旅行に行った後にはもっと、野口英世の学びが深められるようにしたいです。



宮城県大崎市立古川第一小学校の皆さん



宮城県仙台市立桜丘小学校の皆さん

平成30年度に出前授業を行った学校は次の通りです。

福島県

- いわき市立平第六小学校
- 郡山市立谷田川小学校
- 伊達市立石田小学校
- 伊達市立大石小学校
- 福島市立吉井田小学校
- 本宮市立糠沢小学校
- 柳津町立柳津小学校

宮城県

- 石巻市立石巻小学校
- 石巻市立向陽小学校
- 石巻市立中津山第一小学校
- 石巻市立中津山第二小学校
- 石巻市立二俣小学校
- 石巻市立前谷地小学校
- 石巻市立湊小学校
- 岩沼市立岩沼小学校
- 大崎市立古川第一小学校
- 大崎町立大郷小学校
- 角田市立西根小学校
- 角田市立東根小学校
- 加美町立中新田小学校
- 加美町立鳴瀬小学校
- 加美町立東小野田小学校
- 加美町立広原小学校
- 気仙沼市立面瀬小学校
- 気仙沼市立九条小学校
- 気仙沼市立月立小学校

七ヶ浜町立汐見小学校

- 柴田町立槻木小学校
- 柴田町立船岡小学校
- 仙台市立愛子小学校
- 仙台市立市名坂小学校
- 仙台市立岡田小学校
- 仙台市立沖野小学校
- 仙台市立沖野東小学校
- 仙台市立上杉山通小学校
- 仙台市立黒松小学校
- 仙台市立木町通小学校
- 仙台市立金剛沢小学校
- 仙台市立桜丘小学校
- 仙台市立鹿野小学校
- 仙台市立将監小学校
- 仙台市立高砂小学校
- 仙台市立高森小学校
- 仙台市立高森東小学校
- 仙台市立立町小学校
- 仙台市立鶴谷小学校
- 仙台市立原町小学校
- 仙台市立東長町小学校
- 仙台市立袋原小学校
- 仙台市立南材木町小学校
- 仙台市立吉成小学校
- 大和町立小野小学校
- 富谷市立明石台小学校
- 富谷市立富ヶ丘小学校

富谷市立成田東小学校

- 富谷市立日吉台小学校
- 登米市立登米小学校
- 名取市立高館小学校
- 名取市立ゆりが丘小学校
- 美里町立更生小学校
- 美里町立小牛田小学校
- 美里町立南郷小学校
- 美里町立不動堂小学校
- 南三陸町立志津川小学校
- 南三陸町立名足小学校
- 東松島市立赤井南小学校
- 東松島市立矢本東小学校
- 松島町立松島第一小学校
- 山元町立坂元小学校
- 山元町立山下第一小学校
- 利府町立青山小学校
- 利府町立利府小学校
- 亘理町立吉田小学校

新潟県

- 加茂市立石川小学校
- 佐渡市立金井小学校
- 佐渡市立真野小学校
- 三条市立裏館小学校
- 田上町立田上小学校
- 燕市立小池小学校
- 燕市立燕南小学校
- 燕市立分水小学校

埼玉県

- 川島町立伊草小学校
- 川島町立つばさ北小学校
- 久喜市立栢間小学校
- 久喜市立小林小学校
- 幸手市立上高野小学校
- 幸手市立さかえ小学校
- 幸手市立長倉小学校
- 白岡市立菁我小学校
- 白岡市立西小学校
- 草加市立草加小学校
- 蓮田市立黒浜北小学校
- 松山城南高等学校



平成30年度の受け入れ資料

○野口英世書「養老」(借用)

(福島県・太田由幸氏)

○野口英世書「養老」(借用)

(福島県・小松山久栄氏)

○ガーナ日本友好チヨコレート

(ガーナ共和国・ガーナ日本友好議員連盟)

○竹田綜合病院院歌の由来(コピー)

(福島県・石田寛人氏)

会津若松市にある竹田綜合病院内の院歌には2番に野口英世が登場します。この院歌は創立者竹田秀一氏が第二高等学校時代の恩師・土井晩翠氏に作詞を、古閑裕而氏に作曲を依頼し作られました。

○故野口英世追悼会記念講演会関連資料(借用)

(福島県・八子弥寿男氏)

○ガーナ木製の櫛壁掛け

(ガーナ共和国・国務大臣一行)

○大村智博士直筆色紙ほか

(東京都・大村智氏)

○野口英世生家絵葉書

(東京都・阿部氏)

○野口英世博士剖検所見記録

(ガーナ共和国・ガーナ大学野口記念医学研究所)

○銅版画「氷の翼」

(東京都・庄漫氏)

○句集「赤道の国から」

(東京都・小瀧徹氏)

○エクアドル花火プロジェクトDVD

(東京都・宮浦歩美氏)

日本エクアドル外交関係樹立100周年を記念し、2018年8月13日に猪苗代町で行われた花火大会の映像をエクアドルで上映し、子どもたちに日本文化を伝え、外交関係樹立100年の記念の年を祝いました。

○キト・セントラル大学記念写真

(エクアドル共和国・フェルナンド・モンカヨ氏)

黄熱病研究の報告のためエクアドルの首都・キトを訪れた際にセントラル大学医学部で撮影された記念写真。

英世の右隣には、後にエクアドル国大統領となるイシドロ・アヨラ博士も写っています。

○資料叢書「小野寺直助留学日記」

(福岡県・九州大学大学文書館)

○野口英世関連新聞記事ほか

(メキシコ・日墨協会、橋本由浩氏)

1919年に野口英世がメキシコ来訪をしてから100周年の記念事業の中で、日墨協会を中心に当時のメキシコで発行された新聞記事を調査し、該当部分を翻訳されました。

○野口英世マンガ・絵画・紙芝居

(ペルー・ヒデオノグ学園)

○「彫刻家 伊藤五百亀作品集」

(愛媛県・西条市教育委員会五百亀記念館)

○「サンパウロ新聞」

(ブラジル・渡辺三男氏)

1957年にブラジルの福島県人会創立50周年を記念して建立された野口英世胸像の製作由来や現状が、日系社会の遺産として残されていることが紹介されました。

○医学史関係書籍

(福島県・戸田憲一氏)

○野口英世絵本

(鳥取県・上田勝利氏)

○野口英世イラスト

(エクアドル共和国・グアヤキルコミッククラブ)

○山内ヨネ名刺

(福島県・目黒信一氏)

○「北里柴三郎学術論文集」

(東京都・北里柴三郎記念室)

○生糸

(福島県・荻野昭氏)

本年も多くの資料寄贈・借用・情報提供をいただきました。この場を借りまして御礼申し上げます。今後も資料などの情報がございましたらご一報いただきたくお願いいたします。



モンカヨ氏から寄贈された
キト・セントラル大学記念写真

2018年

3月21日～7月8日	野口英世没後90年記念特別展Ⅰ「野口英世博士逝去セラル」	6月24日	ばんえつ発見の旅サポート連携イベント 記念館PR
3月23日～4月8日	春のおもてなし企画	7月7日	於新潟市いくとびあ食花
4月1日	野口英世記念会報第63号刊行	7月9日～9月30日	野口英世記念医学賞選考委員会 於東京
4月2日	永年勤続表彰式 古俣純子 森田鉄平	7月14日～8月31日	野口英世没後90年記念特別展Ⅱ「野口英世最後の闘い」
4月14日	野口英世没後90年記念 大村智博士講演会 於学びいな	7月18日～8月12日	夏のおもてなし企画
4月14日	ガーナ共和国国務大臣一行来館	7月28日～29日	野口英世展「人類のためにー世界の医学者野口英世の生涯」 於甲府駅北口藤村記念館
4月15日～11月25日	TRAIN SUITE四季島 お出迎えお見送り	7月28日	極上の会津フェスティバル～観光と物産展2018夏の陣～ 記念館PR 於仙台市勾当台公園
4月28日～5月6日	GWおもてなし企画	7月28日	野口杯争奪ゲートボール大会
4月29日	おかめの会さくらまつり 記念館PR	8月4日	平成30年度奨学生証贈呈式・第56回奨学生懇親会
5月5日	こどもの日餅つき大会	8月4日	於猪苗代観光ホテル
5月12日	野口英世博士顕彰記念中学校球技大会 於町内中学校ほか	8月4日	極上の会津イベント 記念館PR 於磐越自動車道磐梯山SA
5月21日	第90回野口英世博士命日祭 於長照寺	8月6日～8月10日	博物館学芸員実習受け入れ
5月21日	フランク・オチエレ駐日ガーナ共和国大使来館	8月9日	救世観音祭礼
5月21日	野口英世没後90年命日祭記念講演会	8月9日	トリックアート撮影スポット新設
5月22日	野口英世博士剖検所見記録引き渡し	8月11日～19日	夏期開館時間延長
5月24日	於ガーナ大学野口記念医学研究所	8月22日	翁島小学校 花プランター寄贈
5月26日	第1回資金運用委員会（書面審議）	8月25日～26日	24時間テレビチャリティーブース 記念館PR
6月2日	監事監査	9月6日	於新潟市万代シティ
6月2日	第1回理事会	9月6日	生家燻蒸
6月9日	野口英世博士剖検所見記録贈呈式	9月12日	野口英世博士顕彰記念小学校体育祭 於猪苗代町運動公園
6月9日	アナン野口記念医学研究所所長、クミガーナ大学副学長、	9月12日～13日	猪苗代町立猪苗代中学校職場体験学習受け入れ
6月9日	姫野勉駐ガーナ日本国大使、オチエレ駐日ガーナ共和国	9月13日	第3回資金運用委員会（書面審議）
6月10日	大使来館	9月15日～24日	秋のおもてなし企画
6月10日	羅羅屋ランドセル展示会 記念館PR	9月22日	第3回理事会（書面審議）
6月12日	於新潟日報メディアアシップ	9月22日～23日	ハイウェイフェスタとうほく2018 於勾当台公園
6月12日	第2回資金運用委員会	9月28日～30日	会津フェスタ2018 記念館PR
6月17日	生家燻蒸	9月29日～30日	於イオンモール新浦安
6月17日	第1回評議員会	10月1日～1月13日	しらかわキャラ市 記念館PR 於白河市総合運動公園
6月18日	第2回理事会（書面審議）	10月1日	野口英世没後90年記念特別展Ⅲ「野口英世が遺した絆」
6月20日	高瀬寧駐メキシコ日本国大使来館		野口英世博士顕彰記念少年科学賞審査会
6月21日	緑小学校 緑の少年団 花プランター寄贈		

2018年度 主な行事

10月2日	野口英世顕彰記念小中学校音楽祭 於学びいな
10月14日	いなわしろフェスティバル秋 於国立磐梯青少年交流の家
10月18日～19日	野口英世と猪苗代観光物産展 於新潟日報メディアシップ
10月20日	ラ・フェスタ・ミツレテリア2018
10月27日～28日	極上の会津フェスティバル～観光と物産展2018秋の陣～於ららぽーと横浜
11月2日～4日	会津フェスタ2018 記念館PR 於越谷レイクタウン
11月3日	第61回野口英世記念医学賞授賞式
11月9日	オチエレ駐日ガーナ共和国大使来館
11月9日	第142回野口英世博士誕生祭
11月9日	第23回野口英世博士顕彰記念少年科学賞授賞式
11月9日	第57回野口英世博士顕彰記念作文コンクール授賞式
11月23日～25日	秋のおもてなし企画
12月1日	ガーナ共和国オリンピック委員会委員来館
12月2日	第17回母から子への手紙コンテスト表彰式 於学びいな
12月5日	野口英世アフリカ賞医療活動部会委員来館
12月13日	ナナ・アド・ダンクワ・アクフォアド・ガーナ共和国大統領来館
12月16日	姫野勉駐ガーナ日本国大使、オチエレ駐日ガーナ共和国大使来館
12月16日	奨学生選考委員会
12月22日～1月14日	冬のおもてなし企画
12月29日～1月3日	年末年始休館
2019年	
1月10日	団子さし
2月1日	節分豆まき
2月5日	野口英世博士顕彰記念小学校スキー大会 於猪苗代スキー場ほか
2月14日	第4回資金運用委員会
3月9日	第4回理事会
3月24日	第2回評議員会
3月29日	野口英世生家 国の登録有形文化財に登録

2019年度 主な行事予定

2019年	
3月21日～9月12日	野口英世記念館開館80年記念・野口英世生家登録有形文化財登録記念特別展(前期)「記念館を訪れた人々」
5月5日	こどもの日餅つき大会
5月21日	第91回野口英世博士命日祭
5月	野口英世博士顕彰記念中学校球技大会
6月1日	理事会
6月16日	評議員会
8月9日	救世観音祭礼
8月	2019年度奨学生証贈呈式・第57回奨学生懇親会
9月13日～3月19日	野口英世記念館開館80年記念・野口英世生家登録有形文化財登録記念特別展(後期)「あなたが訪れたのはいつのころ」
9月	野口英世博士顕彰記念小学校体育祭
10月	野口英世博士顕彰記念小中学校音楽祭
11月9日	第143回野口英世博士誕生祭
11月9日	第24回野口英世博士顕彰記念少年科学賞授賞式
11月9日	第58回野口英世博士顕彰記念作文コンクール授賞式
11月	第62回野口英世記念医学賞授賞式
12月	第18回母から子への手紙コンテスト表彰式
2020年	
1月	団子さし
2月	節分豆まき
2月	野口英世博士顕彰記念小学校スキー大会
3月	理事会
3月	評議員会

寄付のお願い

日頃より公益財団法人野口英世記念会の事業にご理解、ご支援を頂きまして、心より感謝申し上げます。

野口英世記念館は平成27年4月1日にリニューアルいたしました。野口英世の生涯と業績の展示をわかりやすく一新するとともに、野口英世が挑んだ細菌の世界を、ゲームやクイズで体験していただくコーナーを新設しました。多くのお客様には是非一度ご来館いただきたく、お待ちしております。

この度の新展示館のオープンを機会に、野口英世の生涯と業績をより多くの人に広く知っていただくため、職員一同一層の努力をいたします。

つきましては、皆様には野口英世記念会の活動に重ねてご理解とご支援を頂き、ご寄付を賜りますようお願いもうしあげます。

公益財団法人野口英世記念会

寄付の申込方法

- 「寄付申込書」に必要事項をご記入いただき、事務局まで郵便、FAXまたはE-mailでお送り下さい。お申し込みは随時受け付けます。
- お申し込みをいただきましたら、野口英世記念会から郵便振込用紙をお送りします。振込手数料は野口英世記念会が負担します。
- 寄付金の額は、一口3,000円をお願いします。
- ご寄付いただいた寄付金は税法上の優遇措置として「所得控除」の対象となります。寄付金の額から2,000円を引いた額を当該年度の所得から控除できます。ただし、年間総所得額の40%が限度です。
- ご寄付の特典については、ホームページをご覧ください。
- ご寄付を頂いた方は寄付者銘板に芳名を掲載します。掲載を希望されない方はお申しつけ下さい。



寄付申込書

寄付金額 金 円

ふりがな	
氏名	印
住所	〒
電話番号	
E-mail	@

◎ ご記入いただきました寄付申込書は、下記事務局まで郵便、FAXまたはE-mailでお送り下さい。

事務局

公益財団法人 野口英世記念会

〒969-3284 福島県耶麻郡猪苗代町大字三ツ和字前田81番地

TEL:0242-85-7867

FAX:0242-23-7122

E-mail:office@noguchihideyo.or.jp

野口英世記念館は、開館80年を迎えました。

80th anniversary



1939



2019



開館80年 記念特別展

野口英世の生家が
国の『登録有形文化財』に登録されました！



野口英世記念館
広報大使
ヒデオ



生家は英世が過ごしていた時代と同じ場所に、
そのままの形で保存公開されています。

前期

記念館を訪れた人々

2019年3月21日～9月12日

記念館には皇族や著名人の方が多くいらっしゃいました。
野口英世記念館と生家の80年の歴史をご紹介します。

後期

あなたが訪れたのはいつの頃

2019年9月13日～2020年3月19日

みなさんが以前に見た記念館・生家はどんな形だったでしょうか？
みなさんを想い出の旅にご招待します。

Hideyo Noguchi Memorial Museum 野口英世記念館

福島県登録博物館第1号(1954)

〒969-3284 福島県耶麻郡猪苗代町大字三ツ和字前田81
tel: 0242-65-2319
http://www.noguchihideyo.or.jp

開館時間 4月～10月 午前9時～午後5時30分(入館は午後5時前まで)
11月～3月 午前9時～午後4時30分(入館は午後4時前まで)
入館料金 ●大人:1日帰以上 800円 ●子ども(小学生) 500円
●一般団体(20名様以上):大人 550円 ●子ども 250円
●学生団体:高校・大学・看護学校生 400円 小・中学生 250円



野口英世記念館案内

【設立】

1939年（昭和14）5月21日 開館
1954年（昭和29）

福島県第1号登録博物館

《ご利用案内》

開館時間

4月～10月

午前9時～午後5時30分

11月～3月

午前9時～午後4時30分

ただし最終入館は閉館30分前まで

休館日

年末年始（12月29日より1月3日まで）

入館料金

○個人料金

大人 600円

子ども（小中学生） 300円

○団体料金（20名以上）

大人 550円

子ども 250円

○学生団体（学校引率）

小中学生 250円

大学・高校・各種学校 400円

【沿革】

1928年（昭和3）5月21日野口英世博士が西アフリカで殉職した翌月、日本工業倶楽部で行なわれた追悼会に際し、「野口英世博士記念会」（記念会）が設立された。

記念会は、翌年に生家の保存と二つの記念碑を建立、1938年（昭和13）には、文部大臣より財団法人の設立が許可され、その翌年の博士の命日に「野口英世記念館」が開館した。

記念会は、2013年（平成25）4月、公益財団法人に移行し、2015年（平成27）4月には、新展示館をリニューアルオープンした。

2019年（平成31）3月、生家が国の登録有形文化財に登録された。

お問い合わせ

福島県耶麻郡猪苗代町三ツ和字前田81

電話 0242(65)2319

ホームページ

<http://www.noguchihideyo.or.jp>

野口英世記念会報 第64号

公益財団法人野口英世記念会

発行日 2019年4月1日

発行人 八子 弥寿男

編集人 森田 鉄平

〒969-3284

福島県耶麻郡猪苗代町大字三ツ和字前田81

公益財団法人野口英世記念会

電話 0242(85)7867

FAX 0242(23)7122

E-mail office@noguchihideyo.or.jp



公益財団法人 野口英世記念会